武相教育

紀元二五九七年　第九十二號

研究發表特輯號

國民精神總動員

昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可
昭和十二年十二月廿五日發行（毎月廿五日發行）

神奈川縣教育會發行

卷頭言

凱歌天に湧き、歡呼地を蔽うて、わが待望の南京陷落は、遂に世界の現實となり、皇軍堂々の入城は、まさに歷史的偉容と盛觀とを以て、威武四隣に振ひ勳功萬代に亘るの秋に相會したのである。擧國欣快の情は齊しく慶祝賞嘆の念となつて、感謝感激の心を新たにするものである。

北支の一角に端を發した事變の進展は、遂に上海の戰局に擴大し、國民政府抗日の氣勢は、彌々强烈の度を加へ、近代的構築の堅壘に寄つた頑敵は、術策と抵抗の限りを盡して皇軍を追はんとしたのであるが、わが誠忠將士の勇躍は海に陸に空に、壯烈果敢の攻略をつゞけ、連戰連勝、一壘を制し一塞を拔き、僅々一ヶ月にして南京包圍の體勢全く整備するに至つて、暫く一國の首都たるの面目を尊重し、文化の保全と無辜民衆の安寧を慮つて、歡降の手段に出づ、反省の實を示さゞる爲に遂に一擧にこれを攻略したことは、洵に正義の師の進止を明にし、帝國の堂々たる態度を世界に宣明したものである。

今次攻略の神速果敢な進擊は、まさしく中外驚異の的となつてゐる。その因て來るところを思へば、一に擧國一致堅忍持久盡忠報國の大精神の發揚に存する。事態は今や一期を劃して、更に重大なる契機を迎へんとする。冷靜愼重、益々國民精神總動員して、帝國所期の目的達成に邁進せねばならん。

（二二・一二・一一）（佐藤禮云）

目次

卷頭言……二
神奈川縣下に於ける明治天皇聖蹟を調査して（十二）
聖蹟調査委員　磯貝正……三
講演
書方教育について……文部省圖書監修官…各務虎雄……五
學級教育の本質的考察……奈良女高師教授…小川正行……七
入定考査に關する考察……神奈川高女校長…佐藤善次郎……一一
股汝耕を憶ふ…横濱圖書館長…鈴木保太郎……一四
兒童生徒作品欄……一六
綴方作品の一考察……下郡湯本校…市川一夫……二〇
旅行雜感……神師附屬校…熊坂菊治……二二
蘇州寒山寺……佐藤秋蟻……二三
國民精神文化長期講習會に出席しての所感……川崎小田校…小山武夫……二四
勇士を送る……都筑二俣川校…山田汕次郎……二四
小學書方教育研究發表會概況……神女師附屬小學校……二五
全體觀に立脚せる學級教育研究發表會概況……神師附屬小學校……二六
滿洲帝國國民使節一行來る……高津小學校……二六
出動將兵慰問實施……二七
溫舊講習會の記……二八
編輯後記……二八

神奈川縣下に於ける

明治天皇聖蹟を調査して（十二）

聖蹟調査委員　磯貝正

今般　御還幸に付申觸候　來る八日早朝其村往還道場江人足差出掃除入念いたし御通行相濟候迄相詰右之樣急度申付可被成候　以上

辰十二月五日　（保土ヶ谷宿）問屋　與治右衞門

（芝生村御用留）

乍恐以書付奉申上候

今般
御還幸御用相濟候に付本陣其外江被下候分冥加至極難有奉
頂戴其餘御建札其外御大切之品支配出役差圖を請今十一日
巳中刻燒上右灰は海中江相流し申候間此段御訴奉申上候　以上

保土ヶ谷宿
（本陣之書十九）

一銀拾六匁
是は杉四分板八枚代天井板破目板共但右場所ニ用候分
一四匁
是は右場所ヘ用候大貫壹丁但し天井桟ニ遣候分
一錢壹ヶ八百貳拾四文
是は右ニ用候釘但大五寸百本四寸百本貳寸百本之代
一銀拾貳匁五分
是は雪隱はり附け美濃紙之代
一銀拾貳匁五分
是は右經師職手間扶持代共
一錢百四十八文
是は生麩之代
一銀五拾貳匁五分
是は疊表中もの七枚之代但し廊下薄緣並雪隱ニ引込ミ分

二、御還幸（明治元年十二月八日）

東京御駐輦早々にして京都御還幸遊ばさる事となり、十二月八日午前六時東京西城御出門、大體御東幸時休泊の地に車駕を駐めさせられ給ふた。還幸日誌には神奈川驛御發輦戸塚驛御着輦の間に於ける當宿關係の記載がないので詳細不明であるが、明治天皇聖蹟保存會の明治天皇行幸年表には境木御小休の事見え、又同會の聖蹟記念帖東京行幸の卷には本陣苟部家にも御小休の旨記されて居る。當宿に關する御還幸の史料としては左の二點を擧げ得るに過ぎないが、後者の文書に依り御小休の事も確かであると考へられる。

三、御再幸（明治二年三月二十七日）

京都御還幸後皇后冊立の御儀を行はせ給ひ、明治二年三月七日再び京都御所御發輦あつて、東京へ御再幸あらせらる。

三月二十七日藤澤行在所を御發輦、境木若林宅並に本陣苟部宅に御小休の後、神奈川本陣石井直方宅に御書饌行在所を定めらる。

（若林氏所藏文書）

一、御再幸に付境木御小休所御上段御手入御小用所新規仕立方所々御修覆御入用調書

一、御上段御座之間貳疊臺　貳疊
代銀七拾七匁　壹疊ニ付三拾八匁五分ヅツ
備後表　貳枚
代銀四拾壹匁　壹枚ニ付貳拾匁五分ヅツ
右紅絲ハ御渡シ之積リ
刺手間絲代トモ
代銀三拾七匁　壹疊ニ付拾八匁五分ヅツ
一、下ゲ椽側長四間之間
薄　緣　壹枚　但シ紅絲ニ付繼立
同　六尺　壹枚　但シ右同斷
備後表　五枚
代銀百貳匁五分
右緣ハ御渡シ之積リ
刺手間絲代トモ
代銀三拾七匁五分　壹疊ニ付七匁五分ヅツ
一、下ゲ向見世早鳥表薄緣　拾四枚
代銀貳百六拾六匁　但シ壹疊ニ付拾九匁ヅツ
右緣ハ御渡シ之積リ
刺手間絲代共　壹疊ニ付七匁貳分ヅツ
代八拾五匁八分
一、見世腰掛早鳥薄緣　四枚
代七拾六匁　右同斷
刺手間貳拾八匁八分　壹疊ニ付右同斷
一、障子張替　拾壹本
美濃紙六帖
代銀三拾九匁
一、御雪隱障子張替
西之內紙　貳本
代銀六匁七分五厘　貳拾七枚但壹匁貳分五厘ヅツ
荏油貳合
代銀六匁
一、經師方貳口　三人
代銀五拾四匁　但シ手間壹人ニ付拾八匁ヅツ
一、御小用所釘御入用釘　但シ壹本ニ付三厘ヅツ
大五寸百本

代銀三匁
三寸八百本　壹東ニ付壹匁貳分
代銀九匁六分
一、同所踏段釘
大五寸ニ拾五本　同斷
代銀壹匁五厘
一、下ゲ雨障子取附釘
三百目貳拾本　壹本ニ付六厘
代壹匁貳分
一、下ゲ同柱銀差込箱釘
大五寸貳拾四本　壹本ニ付三厘ヅツ
代銀七分貳厘
一、下ゲ小用所入口包釘
三寸貳百本　壹東ニ付壹匁貳分
代銀貳匁四分
一、下ゲ雪隱羽目柚塀共釘
大五寸貳拾本　壹本三厘ヅツ
代銀六匁
三寸貳百五拾本　壹東ニ付壹匁貳分
代銀三匁
一、御玄關脇三尺羽目
杉四分板　三枚
代銀九分
三寸釘五拾本　壹東壹匁貳分
代六分
一、御上段之家根棟谷御手入御入用
萱五束〆　九拾束
代銀四拾五匁
桿打竹　五束
代銀四拾匁　但シ二尺廻リ束壹把八匁ヅツ
杉皮　八束
代銀貳拾八匁　但シ壹東ニ付三匁五分
摺繩　貳拾房
代銀五匁　但シ壹房貳分五厘
足場繩　貳拾房
代銀三匁
針鐵百貳拾目
代銀九匁六分
屋根方手間八人
代銀百廿匁　但壹分五厘
同手傳人足七人　拾貳匁ヅツ
代銀八拾四匁　但シ長サ三間一尺五寸廻リ壹
屋根上棟留杉丸太三本　本ニ付七匁ヅツ
代銀貳拾壹匁
蕨繩　五房
代銀三拾貳匁五分　壹房六匁五分
一、御内侍所御入用
杉丸太四本
代銀貳拾匁　壹本五匁
御立竹四本
代銀三拾六匁　壹本九匁
注張繩　貳房
代銀九匁
同地形砂引平均　厚サ貳寸
人足手間四人五分　一人ニ付拾貳匁ヅツ
代銀六拾六匁
（本陣輕部氏所藏文書）
（前略）
御再幸御宿割樣御越に相成候はゞ御泊宿まで神奈川縣役人大工差添罷出候樣御同人樣より御廻達有之候
一、今十六日石川金五郎樣御立寄に相成御普請向は御再幸御宿割被爲入候迄不取懸樣被仰付候
一、此方より御普請積高惣〆金百兩餘也
一、御再幸御用戸田大和守樣其外御宿割御用として戸田樣今十七日小田原宿御泊之由牛車方福島藏人樣より被仰聞候
一、三月十九日御再幸御宿割戸田大和守樣御小休御見分御座候、御用所踏段之儀御尋御座候處大神宮店之扱に引割候由申上候
一、御内侍所御通り懸り御見分御座候　今般御小休計御用に不相成由尤急に御用に可相成も無計候に付撤除等致置候樣被仰聞候
一、御上段袋戸棚其儘に而宜敷由
一、御上段障子穴明候處張替其餘は在來之通
一、御小休所札・御内侍所札・挾竹・大蕨繩共用意御札を御廻しと之積
一、小用所窓其外之處御幕張
一、御門内茘簀に而閉ひ候處丸太押立御幕張
一、御上段貳疊壹貳疊其外三疊汚有之候處表替表職人共御廻しと之積
一、御鳳輦御前薄緣四枚新敷是も不殘御廻しと之積
一、御小用所前五間之薄緣是も不殘御廻しと之積
一、屋根普請雨もり之處其儘に而宜敷此後大風雨も有之大破相成候はゞ可申上樣
一、保土ヶ谷宿御取建物は當廿五日直に出來致候由營繕司樣江石川樣より申上置候儀は中玄關前薄緣を御拵に不相成御座所入側薄緣敷候由
一、今般御改正に付而は取極候事有之候はゞ水野與之助樣江可申上由御裁判所江も可申上由

覺

一、御帖新規貳帖　大紋緣地御渡
一、御座所拾疊之内　三疊表替緣替貳筋組小紋緣
一、二之間拾疊緣替　但絹赤同
一、入側之内江薄緣三枚　緣赤同
一、御椽薄緣新規長五間壹枚　緣同斷
一、御厠取建　但雨障並踏段共
一、建札
一、障子切張
一、宿馬五拾疋餘在來之分有之候に付今般御改正に付定抱馬は三拾疋に相成候に付五十疋之馬に而順番相勤候に付休馬有之由
一、高抱人足は七十人
一、御關札建壹ヶ所　壹本五匁
竹六本七寸廻り　七匁
板代釘代共　壹房拾匁
蕨繩貳房

講演

書方教育について

文部省圖書監修官　各務虎雄先生述

○前言

丁度四年ばかり前になります。昭和八年八月やはり此の席で新訂小學書方手本の編纂趣意についてお話したことがあります。四年後の今日またやはり此の席でお話することになりました。そんなわけで此の學校此の講堂とは緣が深いのであります。もともと私は小學校の國語讀本編纂が目的で文部省に入りましたが、それだけではいけないので、此の頃では修身をやらされたり、つい最近では裁縫までいたしました。只今では書方をやめて東北地方の特別な國語讀本の編纂をして居ります。然し議會で豫算を通してくれますかどうか？……

書方の方は今高等科の手本を編纂して居ります。昨年の夏休までは尋常科の書方をしてゐましたが、先程申し上げました東北地方の國語讀本編纂のために只今では身を引いて居ります。然し書方教育は如何にあるべきかといふ事を申し上げますと大體私の考へてゐた手本のことがわかると思ひますので本日ものこ〳〵とお邪魔したわけであります。……以下省略

近頃支那事變が起りまして北支に南支に上海に皇軍が非常な活躍をして居りますが、之は何のために軍隊が動く樣になつたかを考へて、吾々教育に關係のあるものはよく反省しなければならないと思ひます。暴支膺懲の中には之をしなければならなくなつた何かの原因がある。之を考へた時に吾々は安閑としてゐることは出來ない。我が三千年の光輝ある歷史を益々生々發展せしめて行くか、之を挫折するかさういふ事を考へる時、事件の後に於て政治的に、軍事的に、經濟的に果してそのまゝですまされるものであらうかどうか。生意氣なことをいふ樣であるが、果して今日の教育が日本を生々發展せしめるためにに充分なる教育をしつゝあるかどうかを考へざるを得ません。

○本論

現行の制度によると小學校の書方は國語の一部になつてをり、中等學校に於ては、國語漢文科の一部になつて居りますが、何故か其の原因は私にもよくわかりません。然し此のまゝでよいか。國語科から獨立させなければならないのではないか。といふ事はしばらく措いて、とにかく國語科に屬して居るが全く獨立したものであると言ふ信念をもつて手本はつくつたのである。普樂圖畫に專門學校があるのに同じ技能科である習字にないのはどうしてか。僅かに高等師範にあるのみである。それでは習字教育が改善されない。即ち書道專門學校が出來なければいけないと思ふ。

今日習字といへば毛筆が頭に浮びます。然し之は今日が毛筆時代であるからであつて、十年後にはどうなつてくるかわかりません。硬筆の世の中となるかもわからないのであります。未來永劫に毛筆が盛であるとは限らないのであります。それを頭におきながら考へる必要があると思ひます。

書方教育を教育的にどう見てゐるかと言ひますと文字といふものは要するに人の思想を第三者に傳へるもの、即ち正確に書かれるといふことが萬人に共通に認められてゐる。それから又筆跡が明瞭で速く書けなければならな

日本人が日本人たるべき日本の子供を教育するのであるといふ信念に缺けてゐるのではなからうかと思ひます。我國家が認めた先生が教へるのであるから間違はなからうと言ふのは觀念的である。さういふ意味からいふと今日の書方教育は今までのに反省を加へて一新し、日本人の自覺を持つて教育すべきであると考へます。それで今支那に行つてゐる人、身命を犧牲にして戰つて居られる人々に對しても教育の再檢討をしてかゝらなければならないと思ひます。

い。文字の使命といふものは正確、敏速、明瞭の三つであると思ふ。つまり此の事より毛筆習字排斥の原因が起るのであらうと思はれます。文字といふものは我國に於ては、一つの美術として發達して來てゐるのであります。美しい表現をされるといふ事が歴史的に考へると必要になつてくるのであります。美しく書くこと、筆者の精神活動が美しくあるべきこと、之が毛筆習字の眼目であつて、硬筆習字と違ふ點であります。そして毛筆は人格教育をなす上の材料又精神を鍛練する上の材料であると思ひます。かうして考へて來た時毛筆習字の陣容が述べられると思ひます。磨墨についても墨汁を使用すればよいと考へられるかも知れないが、精神鍛練の上から考へると「墨をする」といふ事の中に限りなき教育的價値が生まれるのである。めんどうではあるがそれを指導していく所にこそ眞の精神鍛練があるのだと思ひます。私は墨は出來るだけすらせていたゞきたいと思ひます。極端にいふと尋常一年生には字を書かせなくとも墨を一時間中すらせてもよいと思ひます。つまり字を書かせることだけが教育だとは思ひません。字を書かなくても人間が出來さへすればよいのであります。唱歌を教へても歌が上手に歌へるといふ事のみが目的ではない。さういふ意味で習字の時間に一時間かゝつて汚さないで墨がすれたならば充分です。これは少し言ひすぎかも知れませんが、私はそれでよいつもりです。

次に毛筆習字であると姿勢が問題である。適當に力を入れて机に向ひ紙に字を書くと言ふことに精神訓練がある。から申しますと如何にも習字教育が實生活からかけ離れる様に思はれますが、要するに小學校の書方の目的は人間の完成である。習字も圖畫も一人前の人間を完成すると言ふ事に眼目がある。習字のための習字であると考へません。子供自身必ずしもうまくなければならないといふのではない。

情操陶冶と言ふ方面から申しますと、人の文字自分の文字を見ることによつて、そこに自分の美的情操が陶冶されて行くことゝ思ひます。つまり、巧みな文字に接することは例へば弘法大師の様な人の文字に接すると、自分が向上心を起し、又下手な文字に接する時は自分の持つてゐる美意識と合はない。此の點毛筆習字は重大な意味を有するものである。

硬筆書方は餘り美的情操の陶冶には役立たぬと思はれる。即ち硬筆によると大體同じ様な字が書け、筆能も餘り表はれず、只機械的に書かれたものを我々が實務的に用ひたものであると思はれる。精神的訓練の方面から言ひますと、毛筆書方は筆を使つた後始末しなければなりません。硯や墨の始末は非常に面倒なことである。之が教育的に重大な意味があると思ひます。例へば唱歌は一時間が濟んでしまふと、さつさと行つてもよいのであるが、習字はさうは行きません。子供にとつては、面倒くさいでありませう、然し之をよく考へて見ると教育的に非常に價値が大きいのであります、書方は精神訓練をする機會が非常に多い。例へば修身で色々立派な德目をあげてお教へになりますことは大切でありますが之は反省の時間がとれます。然し書方はその場その場でやつてしまふので、それをやらせるところに實際的の價値があるのであると思ひます。

新手本の特徴となつてゐる所は藝術的な方面が相當多く出てゐるといふことです。それは美的情操といふことから考へて、出來るだけ藝術的なものを織り込んだ理です。「どんぐり」「子だぬき」等の突拍子もないものを取り入れました。又「花吹雪」と言ふのを入れましたが之は藝術的な香があつて面白いと思ひます。之は「八重櫻」と共に非常に筆者鈴木先生が喜ばれました。と共に之を書く子供も非常に喜びます。此の様に筆者も共に善ばれるものはそれに興味が湧いて來て字の出來もよくなる。さて此の様に藝術的な氣持の漂つてゐるものを選ぶと筆者が喜ばれる。すると字は面白いものが出來るのである。だから少しまづい字がありましてもそれは教材が悪かつたのだと思つて下さい。

ともかく藝術的といふことは大事なことであると思ふが、それのみではいけないと思ひます。前にも申し上げました様に、正確迅速で實用的でなければならぬと思ふのである。正確であるといふ事は藝術であると共に實用的であると思ふ。平安朝時代の文學を見たりすると藝術的によいと思はれるものは實用的でもある。

次に運筆といふ事が問題である。非常によい字は用筆が簡單であると思ふ。鈴木先生の書方は簡單である。之が大事な條件であると思ひます。鈴木先生の講習を受けられた方はおわかりでせうが筆の入れ方等は實に簡單であります。然し之は比較の問題であるけれども從來の書方手本と較べてみていたゞきますとよくわかります。即ち毛筆の使用を指導することによつて實用的文字の指導が完全に出來るのであります。

まとめて申し上げますと、毛筆習字が子供の字を書く力を増すことはあつても邪魔することはないと思ふ、さういふ様な理で今回の手本の改正についてはあやまつた事が傳へられてゐたり又文句のあることも承知して居りますが、以上の様なことから改正したのであります。今度の手本を編纂致しましたのは文部大臣の命によつて各府縣の師範學校からその意見をきいてその上でなしたのであります。更に考へて見なければならない事は一般書道界の事であります。之を背景としなくては手本は出來ないのはあたりまへであります。少しばかり手前みそを列べて見ますと、書道界から見てけなされる様なことはないと思つてゐるのであります。

次に取扱ひの上に考へていたゞきたい事は今日の手本はあの分量でよいかどうか疑問に思つて居ります。多少多くはないかと思ふのであります。出來るだけ多くの字を教へた方がよい。又字數を少くよく教へた方がよいといふ二つの意見がありましたが、その中間を採つたのであります。一・二・三年位は十二教材もあれば十分だと思ふ。十二教材としても滿足に十二教材教へられる學校がどれだけあるだらうかと考へざるを得ない。それならば如何にするかといふと。それは尋一の後期から二年の前期にかけて「カタカナ」の指導を一年間でなし、二年後期から三年の前期までは「平假名」を教へることになつてゐる。二冊合せて一單位と考へて適當に省略することゝによつて出來ると思ふ。尋一から尋六の間に適當に按配が出來ればよいと思ふ。無理をしてあらゆるものを教へる必要はない。只どの教材を選び捨てるべきかはよく考へてしなければならない。さうすればかへつて効果をあげることが出來ると思ふ。五年六年の行書にしても同じことである。そこは適當に按配してもらひたいと思ひます。くれ〳〵も教材の目的性質についてしらべて下さる様にお願ひいたします。教材の性質の中内容的の意味についてもしらべていたゞきたい。

もう一つ申し上げたい事は鑑賞教材についてゞあります。實際に手本には五年前期から入れたいと思つたのであるが、適當なものがなかなかないのでのせられない様になつて了ひました。實際に扱つていらつしやる方々は何等かの方法で取り入れていたゞきたいと思ひます。只鑑賞教育といふ事については多少誤解があると思ふ。どの位のものを取り入れるかといふ事になると恐らくわからない問題であると思ひます。國定の教科書であるが故に、あの様なものを入れたのである。あまり書の專門家を養成するといふ様な事にならぬ様にしてもらひたい。もう一つは手本に書かれてゐるあの文字が絶對的のものではないと思ふ、ともかくその人により用筆書風が違つて來るのは當然である。ある一人の人に書いて貰ふとその人の姿が出て來る。だから子供にはその通りに書かせるといふことよりもそこから子供の個性に合ふやうな指導をして貰ひたい。あまり手本にとらはれすぎてもいけないと思ひます。

○結　び

以上長々とくだらぬことを申し上げました。之で失禮いたします。

（一二・一一・二六於神女師發表會）

學級教育の本質的考察

奈良女子高等師範學校教授　小川正行先生述

學級教育の本質的考察といふ題目で、少々長くなるかも知れませんが、自分の研究致しましたところを述べて御批判を仰ぎたいと思ひます。

我が國の維新以前の教育は、藩學でも寺小屋でもすべて個人的教育であつて、學級教育は維新以後のものであります。しかもその發生根據は教育的ではなく經濟的根據からであります。歐米でもさうであつたやうであります。

ジョンロック・ルソーなどは個人を單位としての教育をなし、學級教育としての形態をとつたのはペスタロッチーからであります。アメリカの方では、能率を重ずる上から今でも學級教育ではあるが個人教育を重じてゐるやうであります。グルトンプラン、ウイテツカシステムなどの考へられたのも、個人の能率を上げやうとする眼目からである。然し教育に對して眞面目な研究

態度を持つドイツに於ては、すでに二十年前からガウルリツヒなどによつて盛に社會的人格を養成する上から學級教育の大事であることを叫んでゐる。

元來人間の見方をどうみるか――吾々は生物學的見地に立つて遺傳といふことに重きを置き、その民族は祖先から繼續した鎖の終りの環と同じに縱に人間の考察をせねばならぬ、さうして最後の環である個人の個性を研究しそれを發展せしめるのが教授の大きな任務ではないかと思ふ。アメリカでは立派な個人を作ることは、立派な社會を作る所以であるとして個性の發揮に力を入れてゐる。然し社會的な教育にも豫想以上の努力をはらつてゐる。實際人間をみるには縱だけの考察ではいけない、横の考察に立つ社會の一員として考へねばならぬ。東大の和辻博士はこの點について次の如く述べてゐる。「人は常に他人との關係に於てのみ人である、倫理の倫はともがら理は筋道である。人間とは人の間と書き社會的存在を意味する。」かうした考へから人の間に生活することを基礎として學級といふものゝ教育的價値を論究してゆかねばならぬ。以上を前提としてこれから本論に入りたいと思ふ。

先づ學級の定義ですが、行政上所謂法規の上からは、一人の教師が教授する一團を學級といふわけである。教育學的にはガウリツヒが次の如く述べてゐる。「學級とは兒童が共同に教育せられる緊密なる團體で、兒童各自は個性を發揮せしめるものである。」と然し緊密なる團體といふだけでは學校と學級との區別がなく、私には少し物足りない、岩波の教育科學の中では金子といふ方が次の如く述べてゐる。「學級は兒童の協同社會的な一つのまとまりたる場として、その中に個性を發揮させんとする社會的環境である。教師の職能により教育的活動を一定の軌道にのせて文化創造、運搬をする協同社會である。」ガウリツヒより一段進んだ定義である。學級といふものはたしかに文化創造・運搬の共同社會ではあるが、子供としての文化創造運搬であつて大人のそれとはことなることは考慮せねばならぬ。私は次の如く定義する。「學級とは教師から指導せられる未成熟者の集合であつて、學校といふ有機的聯關の中の共同意義によつて統一せられたる下級の團體である。」學級は教師と子供とが共同意識によつて結びつけられたるものである。されば學級はどうして成立つてゐるかといへば共同意識である。從來の心理學では子供は自我の念が強く、自己的であるとみられてゐる。これは全く否認することは出來ないが、それと同時に他人に賴る念もある。母と共に自己を意識する共同我がある。オーストリーのビュラーはこのことをよく說いてゐる。有名なイタリーのロンブロゾーは人間は野蠻時代に非常に猛惡であつた、それが大部分子供に殘つてゐるものであるといつて、子供の反社會性を論じてゐるが、子供は自我の一念によると共に他の者と協同に何かしようとする一面もある。自分より上の者には服從し、自分より優越なものにはたよらうとする。子供はこのやうなものであつて決して猛惡な反社會性のみではない。やがて次第に他我を認め、同年輩の友達とよく遊ぶのも我々のよく知るところである。このやうにして社會性が次第に發達して小學校へ入學する。小學校へ入つて學級に編成されるのは全く運命の致すところである。學校では何らかの方針によつて編成するのであらう。これは目的を意識しない單なる集團であると說くものがあるが決してさうではない。學校へ入るといふ考へは漠然ながらもつてゐる子供達の團體であつて集團ではないと思ふ。集團とは何にも考へない人々が出來事の興味で集るもので、例へば自動車や電車の衝突事件にどや〳〵と集つてくる樣なものである。然し一年生でも漠然ながら學校に行くんだといふ意識の下に登校するのであつてそこには目的があるのである。やがて學校にくると同じ遊びを好む者によつて一團を作つて遊ぶ所謂興味團體を作る。これが學級の協同意識を生ずる大なる契機である。

さてどうしてこの協同意識は助成されて行くか、ガウリツヒは次の樣な示唆に富んだ發表を試みてゐる。入學した一年生は、第一に自分の教室、自分の廊下、自分達の運動場、自分等の先生がきめられ、第二に組の名前を與へられる。第三には何時も同じ先生から學ぶことである。第四は先生から複數でよばれることで家庭では殆んどこんなことはない。第五は皆に對して殘らずの者が一度に色々な命令を受け協同の同一行動の指圖を受ける。第六には同じ樣なクラスのあることは學級意識を強くすると。まことにもつともな說である。學級意識といふものは一月や二月では出來るものではない、要するに入學しましてから漸次に子供が協同の行動を重ねる間に協同の感情が生ずるのである。換言すれば學級協同の體驗といふものを重ねるに隨つて協同意識が發展して來るのである。其の體驗の中で感情が最も大切なものである。或る人が言ふのに學育は情操的團體であるとまで述べてゐる。これは核心をつかんだものと言ふことが出來る。かくの如くして一年から二年へと及ぶに隨つて學級意識は略完成してくる。此の時教育者は漸次其の發展の助長を促し、所謂協同社會的に發展せしめる事が重要な目標である。

世間にはドイツの協同社會學校が恰も理想かの如く言ふものもあるが、實際は、私の著書の中へ「獨逸に於ける教育」と題して批評しておきましたやうに、餘程共和的色彩の強いものであつて、獨逸が歐洲大戰に敗れた結果國民の各自が自己を充分認識して、しかも協同して之からの國家を組織して行かねばならぬ、それが爲めには教師の命を待たず、自治自律による協同社會を建設しなければならぬとの考へから來た樣に思はれる。であるからして、我が國にこれを全部適用することは不可能なことであつて、社會學上から申しましても協同社會そのものは結構であるが國情に合はない點もあるのである。

協同社會學校で有名なブレーメンの小學校の狀態につきましては、私の書きましたものに收めておきましたので御覽下されればよくわかると思ひます。こゝは放任の學校で、生徒の各自は勝手な行動をしてゐた。然し他人に迷惑をかけるやうなことはしない、私がその學校に參觀にまいりましたときには喧嘩をしてゐるところがありました。一人は組伏せられて只抵抗してゐるばかりで、一人は馬乘になつてさかんにおさえてゐたが、受持の先生は知らん顏をしてゐた。そのうちに喧嘩はおさまつてしまつた。亦先生が留守でも決して騷がない、あれほどまでに各組を仕込んでおくには大へんなことであつたらうと思ふ。ドイツの學校を參觀すると、よく子供達が日本のアルフアベツトを書いてくれといつて困らせられる。その學校に參觀にまいりました時にも子供達が盛にせがむので、私は「ヤパン」と書くんだといつたら、そこへ留守であつた先生がひよつこり來てすつかり弱らせられた。ところがお見えになつた先生までが「ヤパン」と云ふのを習ふといつて手帳を出して練習をはじめられたのには恐縮した。ドイツの學校はこのやうに其の時に起きた新しい事件をとらへて臨機に學習を展開することについて實にたくみである。

ペーターゼンといふ大學の教授が校長となつて經營してゐる學校を見せてもらひましたが。この學校は實によく訓練が行きとゞいてゐた。入學致しましてからまだ六ケ月しかたつてゐないといふ一年生が、學校にすつかり馴れており、室の出入、扉の開閉などきはめて靜肅に行はれてゐた。尙勉强なども一人でぐん〳〵すゝめてゐたのには感心した。勉强といえば六年、七年、八年といふ上の方は實に進んだやり方をしてゐた。或教室などは、私が入つていきますと、突然立ち上りまして、日本のお客樣に質問しますといつて面喰はされた。「日本にはとても地震があるといふが何故か。」といふのである。私は用語をしらないので、地震の說明を何と言つてよいかわからないので大へん困つた。そこでやつと日本には火山が多いからそれで地震が多いのだと說明したが、それだけではどうもいやな國のやうで殘念でしたので、溫泉の多いことを言はうとしたが、獨逸語で溫泉を何といふのか知らないので熱い湯などゝいつて。困つてゐると、一人の子供が出て來て「ハイセツクエレン」と書いたので、さつそくそれをとつて話をしてやつた。尙「日本は有名な山があるが知つてゐるかと。」といつたら一生が立つて「富士山」と答へたら、更に他の一生が立ち上つて「神聖な山」とつけたした。「高さはいくらか」ときいたので、私ははつきりしないが約三〇〇〇米といつたら子供達はよろこんで三〇〇〇米と書いてゐた。

大分話が脫線して來てしまいましたが、要するにドイツの協同社會學校には良いところがたくさんあるが、その根本において共和的色彩をもつものであつてドイツのやつてゐる全部を日本に移すことは國情の變つてゐる上からしても不可能なことであると思ふ。

さて學級協同社會の本質は、相互の感情的融合及び理解一致といふことにあると思ふ。學級教育は斯樣な協同社會といふものに發展生長せしめることが大事である。感情的に融合し互に理解し合ふ時は、學級は一個の人間に自我といふものがあつて一つの中心にまとまつてゐるやうな形をとる、これを名づけて私は學級精神といふ。二年生頃より學級意識はおい〳〵發達してくる。先生がゐてもゐなくてもよく勉强出來る學級は、學級意識が發達してゐるのみならず、學級精神が出來上つてゐる證據である。學級意識は、他學級との對抗及び共同體驗を重ねるに隨つて次第に發達していくものである。尙劣等兒童の學級はこの意識の發達は遲い、單級小學校も年齡がばら〳〵なので遲い、又良い子供のぬけてしまつた高等科は割合にこの意識が微弱であり。教師の人格がすぐれてゐる學級はこの意識が弱い、然し壓制的に干涉しすぎるときは微弱となる。

次に學級精神と個人について考へてみたいと思ふ。さきに述べました學級的精神は、その學級を組織するメンバーたる兒童の素質、年齡、家庭、住所

教師の人格等夫々相應じて獨特の姿形をとる。學級精神は、出來るとこれは有力となり全メンバーを支配する。即ち一つの規範的勢力をもつてくる。各各は知らず知らずに從ひ、或は意識的に誰れもが從ふのである。所謂ヘーゲルの客觀的精神となるのである。それは日本人の大和魂のやうなものでもある。日本人各自はそれにそむくことは出來ない、かつて私はベルリンに居りましたとき、銀行から金を引き出したところが五拾圓多かつたので、翌日電話をかけて五拾圓多かつたことを通知して、後にかへしにいつたことがありましたが、その時は一人で日本人を代表したやうな氣が致しました。これが客觀的精神といふものでせう。學級精神といふものは兒童各自から出たものであるが自然と規範的勢力を增し、主觀性より客觀性のものとなる。そこで學級內に於ける各自は單なる自己でなく、自己の背後には學級全體なるものを考へるやうになる。これもドイツにゐた頃の話ですが、汽車でアルプスを一人で越へたことがある。その時一人のドイツ人が「一人で行くのかと」たずねましたので、私は「後から大きな團體が來る。」と答へたら解せない顏をしてゐたので「大日本帝國」と言ひましたら、そのドイツ人は愉快さうに笑つた。このやうに學級精神が出來て背後に團體的精神が存在するやうになると、ナトルプの言ふ自我の擴大となるのである。かうなると一面學級に對して各自は單獨行動は出來なくなり、學級が肯定する行動をとらなければならなくなる。良い方は自我の擴大であるが悪い方は自我の抑制となる。學級意識が發展すると、一つの色彩を帶び特長性格をもち所謂級風を生ずる。多くの場合教師や有力なメンバーが變らないかぎりこの級風なるものは變らない。教師たるものはこの級風を正しいよいものに導びかねばならぬ。さうして、この級風を通して兒童各人をして義俠、勇氣、責任、犧牲……等の精神を養成することである。かやうに學級精神をのべた上でさきに申し上げました學級の定義に改造を加へたいと思ふ。「學級とは客觀的精神を中心として、これによりて生徒の精神を支配し、各員はその範圍の中で各自特殊の活動をなして相互に發展して行く生活形式をいふ。」

學級教育についてはアメリカは個別指導に重きをおき、個人の發展を期する能率主義をとつてゐる。然てあれはどうも感心しない、あれでは社會的人格が出來るかどうかといふことは疑問である。ドイツに於てはこれと反對に學級教育の理想を協同社會にありとなし、ダルトンプランもウインネツトカシステムも國民性に合はぬといつて取り入れないですゝんできた。我が國の教育に於ては社會的人格を作ることは大切なことであり、學級教育は重大な使命をもつてゐるのである。

さて學級教育は次の三つの大切なる陶冶勢力をもつてゐる。

第一同化の力——學級生活は兒童生徒の精神的共鳴を生じて自然に全員を同化していく。

第二能率增進の力——學級教育は一般的には、その中のメンバーの活動を强化し、能率を上げていく。

第三は分化の力——學級生活は各人の個別的分化を生じ、その特長を發揮する。

學級生活をしてゐる間に面白いことには、兒童生徒のお互の間に於いて價値判斷が行はれ、いつの間にか順位が生ずる。その品等の生ずる主なるものは三つある。

一、全學科優秀なるもの。

二、人間全體として良い、即ち人格のすぐれてゐるもの。

三、或る學科技術にすぐれてゐるもの。

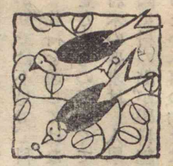
學級教育に於いては、これらの品等の上位にある人物をみつけ出して。指導的人格を養成し、學級の良きリーダーとして活動せしむることが肝要である。

以上くだ〳〵述べましたが、要するに實際教育に當つては學級內の各メンバーをして出來るだけ全體に奉仕せしめると同時に、各個人の特長を十分に發揮せしめることが大切である。それには一、二年の頃にしつかりと級風の土臺を作り、三、四年でみがき、五、六年で立派に仕上げ。社會的人格をもつ公民としてはづかしくないものにして世に出すべきである。それにつけても、學級擔任者の使命の重且大なるを思はざるを得ない。（一・二一二一・四、於神師發表會）

新しいもの……

新しいものは、古いものをきはめつくさずしては生れるものではない、それは丁度若芽が古い根・古い幹からみづ〳〵しい姿をあらはすやうに。

智宇兒



入學考査に關する考察

神奈川高等女學校長　佐藤善治郎

無試驗　先づ入學考査に關して最も單純明瞭にして當然なる考へは、尋常科卒業生は、試驗の關門なしに滯りなく中等學校に入り得る事にしたいといふ議論である。成る程嚴密な小學校令によつて養成し、神聖な卒業證書を與へた者が、連絡ある中等學校の門戶に於て阻止せられる事は、教育者として忍びない事で、無試驗を主張するは尤もな事と言へる。しかしそれは理想である。恰も水が平野を平調に流れるならば、平和で終るが、岩石がせき止めたり、傾斜があつたりすれば急流激湍となり、瀑布となる樣なものである。故に此問題は志願者と收容能力の調和せる郡部に於ては、問題とならなくて、都會それも大都會に於て激烈に起る問題である。何となれば河流の捌きが多種多端で、最後には收容が出來るにしても、一時非常な混雜を生ずるからである。

入學考査は人物登庸の如きもの　そこでそんなに入學考査を面倒に考へないで、多數の志願があつたら抽籤したらよいとか、或は意想外な奇問でも發して、その中から所要の入學者を選拔したらよいといふ議論もある。又或人數だけ採用すれば、自分の學校は運行して往かれるといふ位のアツサリした考であれば甚だ容易な問題であるが、吾人は自分の學校の事情など考へないで、天下の經世家・教育家といふ態度から考へて見ると、入學考査は一種の人物登庸で、その責任の甚大なるに氣が着く。吾々各自にしても「如何にして有用偉大なる人とならうか」とは日夜焦慮する處である。それが幼弱な子女にも同樣である。昔ならばいざ知らず。現代に於ては出世がその出身學校による事は甚大で、出身學校が悪くて出世が出來ぬといふ歎は屢聽く處である。無下に之を否定する事は出來ぬ。入學試驗はその運命を定める大切な仕事であるから、經世家・教育家として之を輕視する事は出來ぬ。父兄や當人に取つては更に大切視するのは明白である。

中等學校入學問題の起る所以　既に競爭であれば眞劍で爭はねばならぬ。優勝劣敗は已むを得ぬ事である。高等學校や大學の入學準備の爲に多くの青年が健康を害し、半途夭折する者も多い。國家の大事であるが、之を抽籤にする事も出來ぬ。「運動して大に身體の健康に注意しつゝ、大に健闘すべし」といふ外はない。それが小學校尋常科の終り、即ち十二三歲の兒童を斯る競爭に曝らす事は、國家の上から考へても、兒童の一生から考へても忍び難い事である。故に之を緩和したいといふのが入學考査の問題に頭を惱ます所以である。小學校ではその教へ子の前途の光明の爲によい學校に送らんとし、中等學校に於ては、國家社會の立場から、如何に正義に、如何に公平に入學者を採用せんかといふ事が大切な問題となつて來る。大體から見て、入學考査の問題は、兒童心身の健全即ち入學準備の困難を救ふのみの問題でなく、一方に於ては正義の双に支配せられる事が考へねばならぬ。入學準備の困難のみを口實として、正義公平を蔑視すべきものでないといふ事も考へねばならぬ。その兩者の割合は七分三分であるか、五分五分であるかといふ事が問題の岐るゝ點である。之をあまり簡單な事に考へて「もしも良方法があつたら無試驗に贊成か」といふ樣な表現法もあるが、これは前提が甚だ薄弱で「もしも百萬圓拾つたら何に使ふか」といふ類で、眞面目な考へでない。入學考査の問題はなか〳〵むづかしい。

內申書　小學校長から出る性質・學力その他の事を記載せる內申書は甚だ貴重なるものである。內申書に記載せられたる事は、さすがに六箇年間の經過を記載せるもので、實に正確で、入學後の成績もその範圍を出ないといふが如き證言は、吾人の聽し處である。吾人もそうなければならぬ事と考へて之を重要視するが、困難な問題は全く別方面にある。それは甲乙二校間を如

何に調和して考ふべきかといふ問題である。職員にも兒童にも、將又甲の學校、乙の學校の間に、學力や訓練に差等のあるべきは誰も認むる處である。甲の學校が最優者を百點にする時、乙の學校で最優者を九十五點とする事は外部から之を非難する事は出來ぬ。しかし內容に多くは差異のあるべきは誰も認むる處である。即ち內容（或は標準）が違ふ。斯る入學志願書が數十校から來る時は、之を受くる中等學校では、正氣に立歸つて考へなければならぬ。如何にして正義公平の裁斷をなすべきかといふ重責任を感ずる。それは自分の學校が要する樣な性格や學力の人を拔出さうとしても、さてその記載が同一學校ならば優劣は解るが、二校の間では比較する事は困難である。此時困難ではあるが大體の處で所要の數を抽出さうとするのも一方法で。これは世間で無試驗といふ方法であるが、不安は免れない。よつて客觀的（或は實證的）方法を加へようとする事になるのである。人物考査・學力考査・體格試驗の仕事が玆に起るのである。

人物考査　これは內申書の記載を基礎として其人を見れば大體解る事で、八九分通りは內申書によるを可とすべきものであるが、前にも述べた樣に甲校と乙校と標準を異にする場合もあるから、一二分はその學校で見る必要があると思はれる。

學力考査　先づ一科か數科かといふ問題であるが、普通教育の性質から言へば、成るべく多くの學科に亘るを可とするは誰も異論のない處である。然るに事情は之を可としない。それは準備が過重になるといふ事である。理想から言へば成るべく多學科を望み、事情から言へば成るべく少學科を望むといふ事になる。私は始めは文科・理科の二類とし、文科は國語を中堅にして地理・歷史を加へ、理科は數學を中堅として理科を之に加ふるを以て適當と思つて居たが、あまり世間の人が學科の減少を望むから、それならば國語・算術二科でよからうといふ樣に考ふる樣になつた。將來の文化生活は國語方面ばかりでは不足で、科學の必要が多い。科學的知識の根底は算術科にあるから、此科を逸してはなるまいと思ふ。前にも述べた樣に入學試驗は當座の選擇をなすものでなくて、人物登庸の大使命を帶びて居るものであるから。國家將來の要求は、入學試驗殊に入學試驗學科に反映しなければならぬと思ふ。國史科の點が學科總點と類似して居るから。國史一科によつて入學試驗とするといふ事の如きは論外である。私は斯る統一は文部省でしてよい事と思ふ。昔小學校教科書の採用を各府縣に任せて、その縣の事情に即する樣にとしたが、その爲に教科書の大疑獄を惹起した事がある。斯る問題にそんなに地方の事を顧慮しなくてもよいと思ふ。

學力考査　次は採點の事になるが、玆に序でに述べて置きたい事は、內申書の成績である。或小學校は九十點より百點の間で採點し、或小學校は六十點より九十五點の間で採點してあるといふが如きは吾人の實見する處であるがこれは其學校が正しくやつた事で、何等の批難も加へられぬ事である。然るに之を受取つた中學校では如何に之を處理するか。その記載の儘に取扱はねばならぬといふ事でもないから、之を同一比例に換算する事が出來る。例へば之を八十點から百點といふ樣にしても決して不公平の事をした事にならぬと思ふ。甲の學校と乙の學校を比べて、い丶加減に評價する事は禁物であるが、右の樣な基礎で之を扱ふ事は公平に思はれるし、そうして斯うしなければ比較的公平に取扱はれない事になる。然らざればあつさりと「參考にして」といふ位で濟む事になる。

それから中等學校に於ける學力考査であるが、これはその筋から示されてあるから今更委しく說く必要はない。採點に於ては一題を同一人が採點する事など必要であらう。學力考査は人物・體格の考査に比べて差の多く出來るは先づ當然の事である。例へば人物・體格は大體八十點以上百點であるのに學科が百點から下は五六十點（或はもつと下）に及ぶ時は、その及落を支配する力は正に約二倍するといふが如きは、免れぬ事である。

體格考査　體格の程度を採點する事は容易でない。故に之を學習に堪ゆる者と堪へざる者とに兩分して、その絕對に學習に堪へぬと認むる僅少の者を省いて、その他は平等に取扱つたらよからうといふ事は、吾人が嚮に考へた事であるが、其後體格の採點も理論上の基礎が可なり精確であると聽いては普ねく採點して之を採否の標準にする事が出來ると思ふ樣になつた。最初に述べた樣に、入學考査は實に國家社會に於ける人物登庸の一事業である。人物としては知德ばかりではなく、健康が甚だ大切な部分をなして居る。故に之を入學考査の點に加ふる事は、適當の事であらうと思ふ。即ち體格が十分であれば、世のあらゆる事（入學も其一部）に於て勝利者となる資格が缺けるといふ事は、現在世の實情が示して居る。之を入學考査の際にも計算に入れる事は誤つた事でないと思ふ。しかし玆に問題がある。それは本縣の規定

する樣に數項に分けて採點し、其表はれた點を七十點、八十點といふが如くに、一定の間隔を置いた點にする事は如何と思ふ。若し二人以上の立派な體格試驗者があつて其採點に差があつたらば、如何にするか。此時は平均したらよからうと思ふ。平均すれば七十點、八十點といふ樣に一定の間隔を置いた點と異る中間の點が現はれる。吾人は此時此中間の點と認めないといふはあまり成績の差を大きくし、强く幸不幸を生ずると思はれる。

試驗の神聖　入學考査が人の運命を支配するものであるといふ事が了解せらるゝならば、受驗は神聖にしなければならぬ。丁度選擧肅正が議會制度の骨子をなす樣に、考査が教育の大切な仕事とならなければならぬ。世に模擬試驗といふのがある。或る學校を目懸けるではないが、兎に角自分の學力を試驗して貰ふといふ。始めから模擬といふのであるから善惡を論評する必要もないが、此模擬試驗の氣分を以て、神聖なるべき眞の試驗に應用せられて折角の試驗に八百長の分子が橫溢する樣になつては、決して國家社會の慶事でない。斷じて排擊すべきものであると思ふ。或小學校の先生から斯ういふ事を聽いた。それは凡ての中等學校は試驗期日を異にし、他の學校の試驗日に召集する事を避け、市內にある二十校、三十校の試驗を悉く受けられる樣にし、四月の四五日頃に行はれる入學式までを考慮期間として、各その理想とする學校に入學する樣にするは、教育上の理想と思はれるといふ提議である。吾輩考ふるに之は理想案でなくて空想案ではないかと思ふ　然らば中等學校では、如何にして確定せる人員を採用する事が出來るかと反問すると、「それは中等學校の問題で、小學校の關知する問題でないといふ。更に「中等學校として自分の學校に入學志望のない受驗者を試驗するは、馬鹿々々しい事ではないか」と言ふと、其處が教育者として忍耐を要する點だといふ。

私の學校に志願した一生徒があつた。父は國家の秩序平安に從事する小官吏である。それがよい成績で合格したが入學しない。その父に會つた時に此事を語ると、「どう致しまして私等の家で女學校にやれませうか。唯氣休めの爲に受驗をさせたのです。女學校の入學試驗に合格したといふ事を一生の誇りとさせたいのです」と答ふ。衷情寔に察するに餘りありと言ふべきであるが、私は更に「あなたの子供の合格した爲に、當然他に一人の生徒は落第（多少見越して多く採つたにしても）して居る。その落第生の中には、驚き戰いて懊想煩悶の極自殺するなど騷いて兩親始め一家を悲劇のどん底に陷らしむるものがあると聽いて居ますが、國家の治安を維持する職掌柄から御一考を煩はしたい」といふと「そんな事があるでせうか。私どもなどでは落第しても平氣で居る覺悟でした。しかし世にはそんな人もありますか。そうであれば、自分の考へは其處まで屆きませんでした」といふ。

入學考査の日に、附添に一寸來た有力な議員の人が私に語るには「本日の受驗者の中には慥に本校入學を希望して居ない者がある。そんな八百長の者と自分の娘を競爭させたくない。もしそれ等の人が優秀で自分の娘が落ちたとすれば、父兄として隨分傷手を負ふ。幸に補缺で入つたとするも、その間に於ける一家の混亂苦痛は容易でない。小學校側から言つても、優劣種々の兒童を受驗せしめるのであるが、眞に入學を希望せぬ者が合格したとすれば其學校から出した劣等生は合格せぬは當然である。此時生徒を受する者があるならば、眞に希望する者を推薦して、八百長志願者を止めるのが眞正なる教育者の態度ではあるまいか。もし小學校長で私の樣に考へない者があつたら御紹介下さい。教育事業には經驗はないが、父兄として大に議論して見たいと思ふ。」といふ事であつたが、「とにかく此事は私から世間に申します。それが徹底しなければ御紹介致します。」と答へた。さうすると議員の人は、「世間では召集し吳れない方がよいと申しますが、私の子供は此の學校を志願して居る。幸に合格したら學校に必要があつたら三度でも五度でも召集される事には異存はありません。」といふ。

市內の中小學校長懇話會で、入學考査の問題が考へられて居る。來年は試驗日を三回位に定めたいといふ議論がある樣であるが、若しそうなれば、澤山の試驗は受けられない。よく研究考察して志望の學校を定めて專心之に向うべきである。今迄の經驗によると受驗學校が多いので準備に甚だ困るといふ。その一例として受驗學校の人物試驗の時「なぜ此學校に志望したか」と聽かれるかも知れぬ。そこで受持教師は準備として種々其學校の特色など教へて置かねばならぬといふ事になる。その結果心にもない僞を答へる樣にと教へる事になつて、教育者として甚だ苦痛であるから、どうぞ此事は聽かぬ樣に願ひたい」と申して來た小學校がある、尤もの事と思つた。入學試驗が早くから志望を確定して進む樣になれば、これ等の難問題は消散し、無駄な手數と無益の失費を省いて志願者延數は、今の半分にもなるであらう。

根本問題　入學難緩和の根本問題は、目的物たる學校の價値を成るべく平

等にするにある金的・銀的・白的を前に置かれた時には、誰も金的を射ようと欲する。今の有様では公立學校は大體に於て設備が整つて居る。私立學校を補助してその設備を整へしむれば、其他の事は各その學校の特色で立つ事が出來る。或は訓練を標榜し、或は學力を標榜し、或は宗教、或は語學、或は技藝といふ樣に特色がある。父兄も教師もその兒童の性質や家庭資産等の各見地から適當の選擇をなすべきである。世の中には誰にもよい學校はない。丁度萬病にきく藥がないと同じである。

名古屋市長大岩勇夫氏は在職既に十年になる名市長である。「入學難を救ふは私立學校經費を補助するにあり」といふモットーの下に市内にある二十の私立中等學校に三萬圓の補助金を均等に與へ、縣は千圓を均等に與へて居る。一校計二千五百圓、此中市の補助は校具器械をその要求によつて與へるので、今は此方面は公立學校を凌いで居るといふ事である。大阪・神戸・東京など調べて見たが、何れも補助が豊富で、神戸の親和高等女學校の如きは四千四百圓に達して居る。本縣の他の學校はよく知らないが、私の學校の縣市補助三百五十圓は、右諸都市の一割か一割五分にしか當らない。まだ補助を受けない學校もある。然らば前途大いに有望であると言へる。東京にしても横濱にしても、中等教育の三分の二は私立で支へて居る。經世家の嘱目を要する問題で、それが入學考査に關して考察すべき主要問題である。

殷汝耕を憶ふ

横濱市圖書館長　鈴木保太郎

殷汝耕は冀東政府の長官であつた、去る七月二十九日通州保安隊の寢返へり襲撃に遭つて拉致された事であるが其の後の消息は知る由もない、私は殷氏と知り合ひでもなければ面接したこともない、又彼が日本留學生であつた爲でもなく彼の夫人が日本婦人である爲でもないが、何となく頼もしい好漢であると思つた。それは全國圖書館大會の爲に滿洲國へ出張した時のことであるが、「北支も視察して呉れ」と冀東政府から色々の印刷物まで添へて案内された、旅程が許さなかつたので殘念ながら北支へは行かなかつたが歸國すると間もなく北支事變が勃發したので視察しなかつたことが一層殘念になつた、せめて心遣りにもと北支の印刷物を通讀して見たが殷汝耕の冀東防共自治政府設立の意見書を讀むに及んで彼が東洋精神を基調とせる本質的聯日親の偉大なる持主であることを知つたからである。

今や北支は完全に我軍の鎭壓するところとなり、天津に北京に其の他の都市に治安維持會が組織され蒙古亦蹶然として南京政府を離脱することになつたが是等諸團體の提唱するところが盡く殷汝耕が嘗て提唱せる經國理想に合致してゐるのみならず戰局の進展が殷氏の言ふところに到達しつゝあることを思ふ時、益々殷氏の卓見に敬意を拂はんとするものである。玆に殷氏經國の理想の一端を紹介することは支那人の見た支那の眞の姿を知る所以であつて、東洋人の東洋を興隆せしむべき大亞細亞教育の參考資料として、或は他山の石たるを希ふものである。（以下殷氏抱負の一端）

一、教育について

南京政府の教育方針は甚だ誤つてゐる、即ち東洋固有の文化は殆んど棄てゝ之を用ひず、却つて歐米諸國の糟粕を甜て支那の教育標準とし、甚だしきに至つては支那の國情と絶對に相容れぬ所の共産思想を奉じて規範とし、青年の空疎な自負心を鼓舞して之を利用するので、多數の青年の思想はその煽動によつて異常に紊亂を來し、多數の學生は大切なる勉學の光陰を放擲して徒らに政治を論じ、朋を呼び類を引いて街頭に群集し、何々を打倒せよ彼を放逐せよ等と叫ぶのである、斯樣の事は何等實際上に裨益する所がないのみならず却つて禍患を増大するもので、實に青年を毒するものと言ふべきであり、國家の前途を永久に滅盡するものである。

二、排日政策について

南京政府が新聞其の他の報導や又南京訪問の日本要人等に對して表面上如何なる言辭を弄しても、それは全く口先だけの外交辭令であつて其の根本政策とする處は總て以夷制夷の政策であり又遠交近攻の政策であつて日本の假裝敵國として總ての工作を行つてゐるのである、其の事實は小學校の教科書だけでも實に五百餘篇の排日反滿教材が編入してある程であつて、此教育が一大原因となつて滿洲事變、上海事變、漢口事件、南京事件等と

いふ極めて不幸な事件が續々と發生したのである、之が今後此儘で推移するならば、五年乃至十年の將來には更に驚くべき結果を來すものではないかと憂ふるものである。

更に南京政府が蘇支密約を結んで對日戰備を行つて居る事は既に新聞紙によつて報導された處であるが、最近また共産黨と提携して思想的にも永久抗日の方針を採り以て日本精神並に日本勢力の驅逐を計つてゐる、更に慨嘆すべきは先年來特に英國との經濟提携を密接にし、その援助によつて貨幣統制と稱して北支一帶の現銀を南京に輸送しやうとして、問題を起したのが北支自治運動勃發の一原因となつたのであるが、南京はもう既に經濟的に英國の掌中に有るのである、現在支那には軍港や飛行場はそれ程必要ではないのであるが、盛に之を建設してゐるのは、自國の用に便するよりは殆んど英國に利用させる目的のものであつて英國と結んで日本を牽制する方針によるものである。

三、秕政について

南京系の私兵は現在二百萬もあるのであるが之等の私兵は戰爭が有れば直ぐに負けるか又は逃げ出してしまふといふ役に立たぬ者が多いのであるが夫れが爲に年々支那國家の收入の約九割もの經費を消耗してゐるのである、之は何の爲であるかといふと皆自己自黨の權勢の爲であつて國民の爲には何等の施設らしい施設を實施しないのである、此傾向は既に第一回の民國統一會議の時に現はれてゐるのであつて、蔣介石氏は其の時已の軍隊だけを擴張し他の軍閥の軍隊を縮少せんと計畫したが、斯かる勝手な案が通る譯もなく他の軍閥の不滿を買つたに過ぎなかつた、又關稅會議の時に於ても我等の主張により且つ日本の支援によつて支那の關稅自主權が認められたのであるが之等によつて生じた莫大の國收も何等國利民福の爲に使用されず、其の殆んどが彼等の私兵や藍衣社といふ暗殺團などに濫用されてゐるのである、斯の如く誤つた私兵增大政策や其の他の失政の爲に經濟は致命的の破綻を來し遂に英國の支援を得て漸く一時を糊塗してゐるのである。

斯樣な狀態は極めて危險な狀態であり、又斯樣な政策は根本的に國家に不忠實な政策であるから我々は斯かる政府を絶對に中國を代表する機關とは認められないのである。我々は南京黨人が自滅するのと一緒に自滅することは出來ないから玆に天道に順應して自ら自治を實行し此の悲運を挽回せんが爲に冀東政府を設立したのである、吾等は晉に冀東二十二縣七百萬人民の安全を計るのみならず華北五省の共同合作によつて中國四億民衆の幸福を計らんとして、現に冀察當局者たる宋哲元氏奏德純氏を初め其の他華北各省の代表者と商議して、黨治を離脱して防共自治を實行する華北防共自治會を組織せんとしたのであるが、當時一同は此事に贊同して居りながら種々の事情によつて今日迄未だその實現を見ないのは甚だ遺憾とするところである。

冀東政府創設の根本精神は孔孟の教を基調とした東洋精神であつて共産主義を防止し吾等住民の自治を實行し以て人類同善、萬邦協和の實現に邁進せんとするものであつて此の精神は本質的に日本の皇道精神並に滿洲國の王道精神と合致するものと信ずるものである。

されば共産黨に對しては、防共の立前から同じ立場にある日本並に滿洲國と提携して東亞の保全を圖り、經濟的には日本の必要とする棉花パルプ原料其の他鑛産物等の重要資源を提供し、冀東の必要とする文化資材を日滿兩國に仰ぎ以て實質的に日滿冀の經濟ブロック達成に邁進せんとするものである、之が爲には國民教育の基礎を破壞する排日教科書を根本的に撤廢して東洋精神を基調とせる日滿支提携を主張した新教科書に改め、實業方面に於ては門戸を開放して日本側の進出を歡迎する等本質的聯日の實績を擧げん事に努めてゐる。

以上は本年の一月、殷汝耕が述べた意見の一端であるが恰も今日あることを豫言したかの感がある、而して斯うした意見なり理想なりは單り殷汝耕のみの持つものではあるまい、恐らくは支那民衆の心であり願望であると思はれるが、彼等軍閥の重壓によつて餘儀なく閉塞されてゐるのである、今や殷汝耕の消息を知るに由なしとするも唐山には殷長官代理として當時の秘書長池宗墨あり、北京の江朝宗、天津の高凌霨等何れも自治會長として活躍すべく、蒙古の雲王德王亦大亞細亞主義を提唱し、玆に東洋文化の再興を期して明朗北支建設の曙光を見るに至つたことは誠に喜ばしい事である。（昭和一二・一一・五）

師走のルポルタアジュ

◇年のはじめのためしとて、をはりなきよのめでたさを…師走の慾に私はぼんやりとした希望をもつた。

◇ひとなみに何かそは〳〵氣ぜはしい日である。

◇今年もあと幾日か……

祝捷の旗をかざして年越さん、

智宇見

高座郡旭小學校　尋五　矢島治

秋空高し
牧場の朝

中郡岡崎小學校　尋二　和田洪

おちば
たきび

尋二　和田洪

愛甲郡中津小學校　尋五　福井嘉爾子

霜枯れ
山茶花

尋五女　福井嘉爾子

中郡大根小學校　尋五　今井温

笠置山
行在所

大根校　尋五男　今井温

愛甲郡小鮎小學校　尋四　永島昭

廣野原
冬景色

尋四　永島昭

愛甲郡中津小學校　尋一　ヤゴタカシ

ハナ
トリ

ジンニダン　ヤゴタカシ

兒童生徒作品欄

くずかき

都筑・都田・尋二　三村ヒデ

私は日よう日に、おばあさんと、もとちやんと、正ちやんと、みかちやんと、くずかきに行きました。かごをしよつて、くまでをもつてみんな喜んで行きました。お天氣がよいので空はまつさをに、くもが一つもなくて、山ももみぢが赤くて、とても、きれいでした。さか道へきたら、おばあさんを、みかちやんと、二人で、あとおしをして行きました。

林の中へ入つて、一生けんめい、拾ひあつめて、まもなくかご一ぱついになたので、おばあさんも休みました。三人で、山の上で、まりつきをしたり、かくれんぼをしてあそびました。道を少し行くと、どぐみのみが、赤くなつてるので、大急ぎで、三人でかけて行きました。すつぱいけれども、あまいのもあります。もう、おひるも、近くなつて、お腹がすいたので、みんなでかへりました。私がかごをしよつて、土手の上へ、こしをかけて、やすんでる中に、後へひつくり返つてかごの中の、くずがみんな、こぼれたので、皆で、お腹のいたくなるほど笑ひました。

きくちやん

中・伊勢原・尋二　河崎春江

私は、きのふごうどへあそびに行きました。

きくちやんは、とても親かうかうでした。

おばさんが、からだがよわいので、あぶらげをあげるのにも、きくちやんがあげるのです。

私が、きくちやんのお手玉をかりてしてゐると、おばさんがなしを持つて來てくれました。

きくちやんは、あげをあげるのがをはると、ほかのしごとです。

ほかのしごとがをはるとべんきやうです。

きくちやんはべんきやうも一生けんめいです。

私は

「きくちやんは、あんなに一生けんめいだから、今にきつとよいえらい人になるだらう。」

と思ひました。

それから、私はみんなに、

「もうかへります。」

といつて、おばさんにいたゞいたなしを持つてかへりました。

はをぬいたこと

高座・旭・尋二　山本昭生

この間おかあさんが、

「ずゐぶんはが中へまがつてゐるね。」

とおつしやつてよく見たら、小さい新しいはが出てゐました。

おかあさんは

「今ぬいて上げませうか。」

とおつしやいましたが、ぼくは、

「今度の日えう日に、はいしやさんへ行つてぬかう。」

といつてぬきませんでした。

日えうになりました。十時ころになると、お母さんは、

「はをぬきにいらつしやい。」

とおつしやいました。

ぼくはお父さんといつしよに、はいしやさんに行く間、いたいかなあといふ氣持で、ふるへてゐました。

まもなくはいしやさんのうちへつきました。

ぼくはおいしやさんに見ていたゞくまで、いたいかなあ〜と、びく〜〜

愛甲郡小鮎小學校　高二　小川きよ

山川草木轉
荒涼十里風
腥新戰場

高二　小川きよ

都筑郡都田小學校　尋三　金子進

落ちぼを拾ふ

三年　金子進

都筑郡谷本小學校　高一　谷本靜枝

欲知閒居趣
来尋山水幽

高一　谷本靜枝

高座郡旭小學校　尋四　山口靜男

いも掘
大根引

尋四　山口靜男

都筑郡新田小學校　尋五　秋元キク

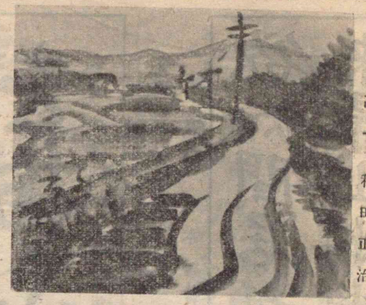
大内山
松の緑

尋五　秋元キク

中郡伊勢原小學校　尋四　亀井利男

圖書館
音樂堂

亀井利男



中郡岡崎小學校　高一　和田正治

都筑郡谷本小學校　尋五　内野幸子

都筑郡都田小學校　尋六　内田和夫

中郡伊勢原小學校　尋六　堀井益雄

してゐました。

ぼくのばんになりました。いすにこしをかけると先生は、こげ茶色のくすりをつけて、あつと思ふまにぬいてしまひました。

ぼくは「もうぬいてしまつたの。」と聞きました。

先生は、

「えゝちつともいたくなかつたでせう。少しちが出て來るね。」

とおつしやつて、だつしめんをあてゝ下さいました。

おいしやさんのうちをでた時、お父さんは、

「よかつたなあ」とおつしやいました。

ぼくはほんとうにあんしんしました。

冬の夜

中・岡崎・尋四　和田節子

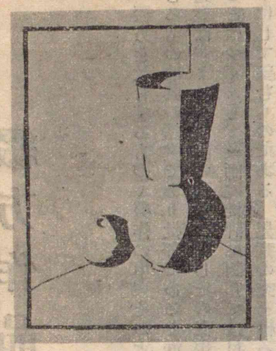
夜だ、こがらしが戸をかさ〳〵とさびしい音をたてゝゆすつていく、その度に池の金魚はぴよこんとはねる。その姿を見たいけれど夜だ。それでもと思つて戸をあけて池を見れば、ひゆう〳〵とこがらしが吹いて來る。「おゝ、寒い」といひながら戸をがたんとしめて家へはいればぽかつとする。金色に輝く炭が火鉢の中に置いてある。猫は家の猫ではないのにかまどのそばで寒さうなかつかうをしてちゞまつてゐる。また戸をあけて空を眺めれば、星は五つ六つとだん〳〵にふえていく、星のそばにはきら〳〵光つた花王石鹸にあるやうなお顔のお月様がにこ〳〵と笑ひながら私の方を見てゐる。その中にはくしやんが出はじめたので家へ入つたら、ぼん〳〵〳〵……と時計は九時をうつた。

おけがなされた兵隊さんへ

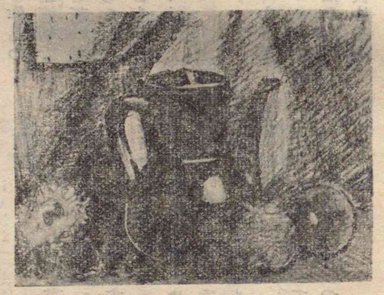
愛甲・中津・尋四　關戸輝子

秋も一そうふかんで參りました。もう私達の學校のポプラの木も大へん黄

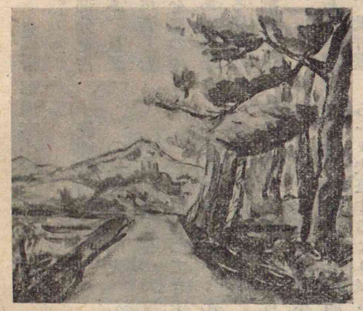
（中郡大根小學校　尋六　白井銀藏）



都筑郡谷本小學校　高一　飯田靜江



都筑郡新田小學校　尋四　石井福男



愛甲郡小鮎小學校　尋六　松野嘉雄

色くなりどこやらさみしいやうなきがいたします。内地でさへも朝夕大へん寒くなりました。戰地に働く兵隊さんや病院の皆々様、どんなにかつらい事で御ざいませう。ラヂオや新聞で兵隊さん達のたふといおてがらをしりますとき私達の心はあのひろい〳〵あら波のやうにおどりさわぎます。そしてにくい〳〵支那兵のために、おきずつきなさいました日本の兵隊さんを思ひますと、いつかしら、涙が出てきます。兵隊さんどうぞ一日も早くなほつて下さい。おねがひです。私は遠い〳〵内地の學校でおいのりしてゐます。又早く兵隊さん達のがいせんなされる日をまつてをります。ではだん〳〵とさむさきびしくなる事と思ひますからじゆうぶんおからだを大切にして下さいませ。（さようなら）

試驗

愛甲・小鮎・高一　青梅キノエ

「今日は算術の試驗だ」と思ふと胸がどき〳〵する。學校へ來ると皆が夢中でやつてゐる席に着いたが胸が落ち付かない。やう〳〵の事で始めたがすぐ鐘が鳴つてしまつた。朝禮が濟んで教室に入つた、やがて先生がお出でになつて試驗の用紙をくばられた、どうしても皆の様に元氣がない、用紙を見ると二十題である。一題さつと三分、一、二、三、四、五、六とやつて行く中にむづかしいのがありはしないかと心配になる。やがて最後の問題を先生がお讀みになつた。始のうちはむづかしい問題だと思つたが、考へて見ると、やさしい様にも思はれた。式をたつて答を出し驗算して見たが合はない、仕方なしに又いろ〳〵と考へる、考へつく頃には鐘が鳴りはしないかと心配になる。今度はやう〳〵出來た、一番から順に調べて見た、別にちがつた所もない様に思はれるが、もし先生に出して違つて居たらどうしようなどといふ氣持も出て來る。やがて休み時間の鐘が鳴つた、皆はびつくりした様な顏をしてゐる。やがて先生が後から集めなさい」とおつしやつたので皆我先にと集める、やがて先生に出し終つて本と引きくらべて見ると大體は合つてゐた。「まあよかつた」と思つて今朝の様子を思ひ出しては一人で笑つた。

綴方作品の一考察

足柄下郡湯本小學校　市川一夫

綴方を教育するものゝ勞作の中、その大部分を占むるものは其の鑑賞であり批評であると惟ふ。且又兒童は、よしや自己の創作に對しその表現に苦しむことは少くとも、教師の批評に對しては目を皿のやうにして望むものである。兒童の文を綴るあの眞摯なまなざしを教壇から眺め、批評を待望する兒童の姿を思ふ時、此の兒童の文に對し妥當なる批評を……と努力せざるを得ないのである。

文の批評は、文學者のそれであつてはならない、あくまで兒童の表現意識を、創作の態度を、批評鑑賞の眼識を培育するものでなくてはならない。

勿論、批評は教師の文章觀と兒童の生活個性の認識からなされるであらう。我々は我々のなす作品の批評に對し、常に吟味し、反省してその妥當適切であるやを檢討しなければならぬ、ともすると斬捨御免の駄評になり勝であるを嚴に戒めねばならない。

私は次の如き批評が行はるゝとすれば悲むものである。或は私の妄斷であるかも知れないが……

お世辭型

○なか〳〵上手です。

○とてもうまく書けました、先生はすつかり感心して了ひました。

これは無指導も甚だしい。一體どこが上手なのか、何に感心したのかさつぱり分つてゐない、賞めるのもわるくはないが、かうむやみに感心されたのでは兒童は呆然とする外はないであらう。

既製品型

○かき出しは大へんりつぱです。

○よくまとまつた文です、終りの一句よくひきしめてあつてきずのない文です。

○かき出しはいゝんだけれどもまん中邊が物足らないやうです。

此の型は前よりはいくらか良いかも知れない。かき出しとか、結びとか指示してあるたけ。しかしこれは兒童の誰の文でも相通ずるものであらう、これなら一々朱筆するよりゴム印でも造つて十束一からげに捺印した方が遙かに能率的であらう、勿論暴評に屬するものである、

朦朧型

○もつとくわしく書くと、もつと上手な文になります。

○少し短かすぎますね、終りの方は一工夫するとよかつた。

「よくなればなほるでせう」と仰しやる正に藪井竹庵氏の御託宣そのまゝである。これではどうも決して兒童の作品は伸びるものではない。

人事相談型

○それは早くやつて了つた方がいゝでせう。

○今度行く時はしつかり仕度をしてからいらつしやい。

說教型

○これから決してそんないたづらしてはいけません。

○左側通行をしつかり守つて下さい。

易者型

○君のそのやさしい心がけきつと神さまも感心した事でせう。

○そのうちにきつと見つかるでせう。

これ等三種何れも生活指導の名に於いてなされるものと考ふるも、それは全くはき違へた生活指導であり錯覺も甚だしいと斷ぜざるを得ぬ。

綴方の生活指導は道德的批評とは相異る。題材の開拓、取材の擴充、創作意慾の誘發助長、兒童の綴る勞作の激勵であり援助こそ、綴方の生活指導である。作品を通してと言ふのを作品の結果から……と思ふのは誤りである。「かく作品させる」ことに重點を置かなければならぬ、綴方の指導は兒童が題材を凝視する時既に始まつてゐるのである。即ち題材への生活指導こそ私達のなすべきものである。

まだ擧げればいくらでもあらう、これ等の批評から兒童は何を得るであらうか。恐らく零である、斯かる批評する位ならよき形への形式指導の方が遙か有益である。即ち題目の定め方から署名の方法、それから行のかへ方などである。形の整備が何も出來てゐないのに前出の如き生活指導評を得々と敢てしてゐるのは誠に誤れりと言はなければならない。

然らば我々は如何に作品の批評を爲すべきか——

第一は兒童の現實生活を基調としなければならぬ兒童と共に遊び、兒童と共に笑ひ、語り且行動して始めて兒童生活を基調とすることが可能である、教室に於ける交渉だけでは到底目的は達せらるゝものではない、教壇から下りて（高さに非ず）兒童と同一線上に立つてこそ始めて爲し得られるのである。

しかも一人々々の個性に根ざして掘りさげるものなることは無論である。

第三は兒童の文章觀を指導者のそれまでに昂揚して行くことである。これには作品の技術的部面の指導が行はれるのであるがその要點は左の如きものであらう。

（一）表現意識を認めてやる

取材の視野を察し、構想の苦心を思考してその創作的萠芽を發見するならば遠慮なく賞讃してやりたい。

（二）表現手法の檢討

所謂「ありのまゝ」にかゝれてゐるかの吟味である。玆に書き出しや、結び精叙及略叙、描寫の眞實正確等を仔細に檢討してやるべきである。

（三）表現形式の指導

よい文はよい形を伴はなければならぬ。文字、假名づかひ、語法、段落等の誤りを正し、正しきを賞めてやりたい。

（四）次の作品への指示、よき暗示を與へてやること。

等擧げることが出來る。これらの批評は兒童作品の文末に書くことは不可能であらう、勿論全部を批評するは批評の時間に於いて行ひ——これが完全に爲さるれば文末に短評を加へる必要はない——しかも尙文末に批評するとせばそれは一作品の指導すべき最重要點を指摘すべきであらう。教師の讀後感みたいなものは往々にして前にあげた與太評となり得るものである。

要するに作品を通して、兒童に語り、兒童に成程とうなづかせるところに批評の價値があるので、教師の一方的作業に終つてはならないのである。左に私の學級兒童の作品と私の批評を掲げて結論とする。

高一　鈴木秀子

私は幼い時から赤い足袋が好きだつた。此の間足袋の入つてゐる大きな袋の中をむやみにかきまはした。

お父さんの黑い大きな黑い足袋。？十一文としてあつた尙かきまはしてゐるうち、ふと目に着いたのは赤い足袋……妹のらしく七文半とかわいいこほぜにかかれてあつた。秀は其の足袋をひつくり返したり、裏を見たり、つるさげたりいぢつてゐるうちこんな七文半の足袋をはいてゐた頃を思ひ出した。まだ學校へ上らない幼い時だつた。みどりちやんに誘はれて「田村」へ遊びに行つた。

「笑子ちやん」「なーに」中から寒さうに身をまるめて出て來た。「上んなよ」「上らしてね」二人は笑子ちやんの後をつゐて座敷へ行つた。

「これなあに」みどりちやんはびつくりしたやうに聞いた。「こたつだよ」「ばかに高いのね」私の顏を見た、こたつは足を入れながらみどりちやんは「此所は何するとこ」「そこはさ、トランプなんかして遊ぶのよ」「しやれてるのね」

やがて笑子ちやんはトランプの箱を持つて來た。「ばぬきよ」笑子ちやんは一枚一枚配つてくれた。胸をわくわくさせながら待つてゐると運惡く私に「おばあさん」が來て了つた。顏をしかめながら一回見終へにつこり微笑んだ笑子ちやんは私の方を見廻した。そして笑子ちやんはみどりちやんの袖を引つぱつてゐる。私に來てゐるのだと合圖をしてゐるらしい。

其の時だつた。大きなふとんの横からむくむくと煙が出て來た。「なにさ、その煙は」急に皆が立上つた。私も立上らうとしたが、とたんに踵の方が熱くなつて來た。びつくりしてとんで來た絢子さんが急いでふとんをまくり私の足袋をぬがせてくれた。皆は立つたまま呆氣にとられて居る絢子さんは私のその赤い足袋をもみながら走るやうにして水がめの中へ突つこんだ。漸く消し終へて持つて來た足袋はもとの足袋の形とは全く違つて居た。

今でもトランプを見るとあの時の事を思ひ出す。今ここにあの時履いて居たと同じやうな七文半の赤い足袋を手にしてはあの時火のついて居るのも知らずトランプに氣をとられてゐた私の幼い姿がありありと思ひ出されてなつかしい。

評

書出し、中心、結びと想が一貫したすきのない文です殊に會話が自然に寫されてゐます。「笑子ちやん」「なーに」中から寒さうに身をまるめて出て來た。「上んなよ」「上らしてね」二人は笑子ちやんの後をついて……このところです、そして此の自然の會話は其の時の季節を表し笑子ちやん達の親しい間柄を錄して居ますトランプの遊んでゐる樣子の叙寫に實感が出てゐます「ばばぬき」の氣分がそのまま出てゐて誰しも經驗する心持をびつたり表してゐます。

私も立上らうとしたがとたんに踵の方が熱くなつて來た……足袋のこげてゐる本人の立場を實によく寫してゐます。此處が文の山でせう。この文の山が精叙されてゐるので事件がはつきりして居ます。唯少し遺憾な點は「こたつ」が不明瞭の點です。みどりちやんが「しやれてゐるのね」と言つた意味がわかりません。書き出しの「赤い足袋が好きだつた」とまとめの「なつかしい」心持が照應されてゐるのは文の想をよく生かして居ます。思ひ出の文としては内容も乏しからずすらすらと描けて輕妙な作です。

—二五九七・一〇・八—

少年の夢に追つて蝗みち　（智宇兒）

旅行雜感

神奈川縣師範學校訓導
熊坂菊治

九月下旬から十月上へかけて、約一週間北海道半島部の旅行をした。超スピードの旅で時間的にも空間的にも極めて部分的のものであるが、その間に感じたことをのべて見たい。

一

地圖を讀むことはなか〳〵困難な事である。北海道の大きさがどの位あるか。といふことについて考へて見る時によると「關東地方より少し大きいかな」位に考へられ易い。ところが旅行案内を繰つて見ると事の意外に驚く。函館札幌間が二八六・三粁で、これを東北線にとれば上野から福島をすぎて宮城縣に入らうとする。前者は北海道本島の二分の一にも滿たないのに、後者は關東地方を突破してゐる。云ふまでもなく線路は屈曲してゐるからその度合によつて二點間の直線距離は短くても線路の粁程は長く表れる場合がないでもないし、又その地方の輪廓形態が團塊形態であるか仲長形態であるかによつても左右されることが多い。而し北海道が關東地方にくらべて廣いことは事實である。然らばどうして前に考へた樣に關東地方より少し大きい位といふ錯覺を起したか。これはその地圓の縮尺を考慮しなかつた結果である。小學校の地理附圖は關東地方から九州地方までが二百萬分の一の縮尺で、北海道から朝鮮地方までが三百萬分の一である。地理教授上この縮尺に注意すべきことは極めて大切なことであると思ふが、往々にして無關心に通過されてしまふことがありはしまいか。

地形上の問題だけで農業適地を決定する事は出來ない。長萬部驛附近は平坦な相當廣い平地が續いてゐるが、殆んど作物は作られてゐないで、倭小な葦の如き植物を刈つて束ねて立てゝあるだけである。車窓から之を眺めて、成程土地の廣い北海道の耕作景はこんなものかと、一人合點しながら長萬部小學校へよつてこのことを聞くと間違ひも甚だしい。決して廣い故ではなく作物の生育に不適當な泥炭地であつたのである。成程長萬部の次、室蘭線靜狩驛に天然記念物靜狩泥炭形成植物群落と書いた標柱が立つてゐた。札幌郊外琴似村にある農事試驗場で泥炭地の實物標本を前に泥炭地と農業との關係を聞くことを得て更によくわかつた。この地方の外にも北海道には可成廣く泥炭地が分布してゐる。白老、苫小牧の邊の廣野も植物景相ば長萬部附近に似てゐる。こゝも泥炭地かと思つたら、こゝは樽前火山の噴出物による火山灰土であるさうな。よく地圖を見て綠色に塗つてあると、すぐ農業が出來、米が作られると考へられ易いが注意すべきことである。この外酸性土壤の地域であるとか、濃霧地域とか寒冷地域とか、その土地の地質や、氣候上の要素が農業地に影響するところは實に大なるものがある。

二

自然の力は偉大なるものである。その一はこの地方に火山活動の旺盛なことである。噴火灣の名も相應しくこれを取卷いて、南に駒ヶ岳、惠山、北に有珠山、羊蹄山を、それより稍東に偏して樽前岳を、その他有名無名の多數の火山を噴起せしめてゐる。駒ヶ岳は標高一一四〇米、半島隨一の雄峰である。生成の始めは實に見事なコニーデであつたらうと想像せられる雄大なスロープをもつてゐる。然しこの山の特長は東方に馬蹄型の凹面を向けて大爆裂カルデウを頂上に有し、西に荒鷲の爪の如き尖峰を聳立せしめてゐることである。函館市を大觀せんものと市の南方稱名寺の裏山に登つた時はからずも烏帽子山、毛無山連山を隔てゝ駒岳の雄姿と爆裂火口に立上る噴煙を望み得て思はず快哉を叫んだのであつた。この駒ヶ岳熔岩流によつて堰止せられたのが大沼、小沼の勝地である。湖中に點々と浮ぶ小島の楢の紅葉が滿々と湛へた湖水の紺碧に映ゆる景は日本一の眺と車中の人が語つてゐたが惜しいことにまだ半月先に行かなければ見られぬ眺めである。

室蘭線有珠驛附近から見た有珠山の山容も特長のある眺めである。車窓に眼近く褐色のドーム形の山容を以て聳えてゐるので何となく威壓される樣な感じがする。苫小牧附近から見た樽前岳の雄姿も忘れ得ぬ印象を與へてくれた。白老社臺苫小牧と續く廣野は樽前火山の裾野でこの長く裾野を引いたコーデの上にドーム形の中央火口丘を持ち盛に噴煙をあげてゐる。三重式の火山と云ふが一見二重式の如く見える。羊蹄山は歸途夜行の爲見ることが出來ず惜しいことをした。

この火山活動に伴ふ溫泉の湧出も極めて豊富である。北海道の三大溫泉と云はれる湯川・登別・室山溪も凡てこの地方にある。その他洞爺湖溫泉・カルヽス溫泉等相當有名なものだけを數へても十指に餘るであらう。この中最も雄大な眺めを有するものは登別溫泉である。地獄と稱する噴氣孔、熱泉を多く有することは箱根大涌谷の比ではない。數十米の赭岩絶壁を繞らす古の噴火口の中に、淡灰色硫黃質の

岩丘起伏連亘してその中に大小無數の氣孔と熱泉を沸騰させ十數の所謂地獄があり、最も活動盛なる大地獄の如きは奔騰する熱湯を湛へてゐる。湯の量の豊富な上に、硫黃泉、鹽類泉、鐵泉、明礬泉、ラヂウム泉などその泉質の多いこともよく、北大の溫泉研究所も設けられてゐる。歸途秋田縣で見た象潟のあとも自然の威力を物語る好い材料である。

四

自然の威力にも増して貴く偉大なものは人の營みであらう。凄慘と見える噴氣熱泉も之を用ひて保養の具とし山間溪谷の間に豪壯な溫泉旅館を經營するのもそれであらう。火山噴出の結果出來た湖水もこれを落して發電事業に利用するのもそれであらう、が而し更に痛切に感じたのは北海道に於ける農業經營である。開拓の始北海道には氣候の關係上米は作られないとされてゐた。然るに其後の人爲的努力によつて溝渠溝を作り排水溝を設けて水質を適當にし生育期間の短い早生種を擇び、或は直播法を用ひて栽培法を工夫する等の結果、函館附近、有珠山南麓等は内地にも劣らない程の成績をあげてゐるとの事である。その他石狩平野にも美田連り丁度收穫の最中で「豊かに稔る石狩の……」の歌を想ひ起させる。これ等農業經營の指導機關は札幌郊外の琴似村にある農事試驗場である。廣大なる試作地と、完備せる研究機關と全道に亘る支場、試作地と緊密なる連繫をとつて、明日の北海道建設へと孜々として涙ぐましい努力を續けてゐる。繁忙の中にもよく視察參觀人を歡迎し、誘掖指導につとめてゐる。試作場の遙か彼方ポプラ並木の續く水稻試作場まで行つて歸つてくると半日かゝる程の所を僅か一二時間のみ見たのでは何としても物足らぬ感じがするが、何となしに力强い感じがした。案内の方が農具擔當の方であつたので特に農具陳列室に案内されて色々と新式の農具について說明して下すつた。百姓に學問は要らぬなどゝいふ考を捨て去らなくては、北海道の農業は經營出來ないと强く感じさせられた。

札幌の都市計畫の整然としてゐることは、話に聞き本でも讀んだが、實地に見ることが出來て大へん嬉しく感じた。市中を歩いて見ても道幅は廣く（概ね一〇九米——二七・二七米）郊外の人家の殆んどない所でもすでに道路が立派に開けてゐる。更に市中を展望せんものと消防本部の火見櫓に乘せて貰つて。市の中央に聳える四十米の望樓から眺めると、圓山に續く道路も眞に一直線に見えるし、創成川に沿ふ石狩道路の如きも見える限り少しの屈曲もない。中央に逍遙道路を持つて市中を東西に貫く大通りも、アカシヤの並木をもつ停車場通りも（幅三六・三六米）すべて現代的都市の美觀を誇り顏である。其の他人の營の偉大さは、苫小牧の製紙工場に、室蘭の製鋼所に、或は青函連絡船に數へあげれば際限のないことであらう。

五

所かはれば品かはるといふが、各地の風俗の違ひも面白いものである。湯川行の電車から見た頗冠りは此の邊の風呂敷樣のものであつた。風呂敷を對角線によつて二分し尖つた所を後に垂れてゐるから頭は見えない。風があたらなくて暖いであらう。もんぺ姿は市中には見受けられないが郊外にはちよいちよい見える。母馬が荷馬車を引いて行く後から子馬が綱もつけず、ぶら〳〵ついて大道を歩いて行く姿も牧馬地帶を思はせる。刈つた稻をかける形式も所によつて違ふ。歸途氣がついたのであつたが、秋田邊では田の畔に一本棒を行儀よく立てゝ、巧にそれにかけておく、酒田邊では枠を態々拵へてそれにきれいにかけてあるし、越後平野には田の畔に一列に木が植ゑてあつてそれに横木を結びつけてかけるやうになつてゐる。その土地と住む人との交互作用がうかゞはれて面白い。

而し、何處へ行つて見ても變らないのは、教育の普及徹底してゐることである。どんな山間僻地でも小學校の建物は立派に出來てゐる。白老の土人部落の小學校を見學しようと訪ねて見てもすでに昨年六月から普通の小學校と合併してしまつたとのこと。叶校長の言によれば何等差別の要なく、能力も劣つて居ない。勿論純粹の土人の子弟といふのは極少いとのことであるが。六十二歳になるといふアイヌのお爺さんに半時間ばかり熊狩りの話を聞いたが、實に日本語が巧なものである。教育のありがたさと責任の重大さとを、つくづく感じた。

蘇州寒山寺

佐藤秋蛾

蘇州は又姑蘇といふ。上海を距ること西二十八里、過般皇軍に落された事は誰も知る處である。人口三十五萬、東西一里、南北一里半の城郭を繞らし、市街は城西に伸びて城外半里に寒山寺がある。小さい寺である。寺に近く大運河が通つて、大運河から寺前のクリークに入る處に長六七間の楓橋が懸つて居る。唐詩選の「楓橋夜泊」の詩で有名である。

楓橋夜泊　唐張繼

月落烏啼霜レ滿天
江楓漁火對二愁眠一
姑蘇城外寒山寺
夜半鐘聲到二客船一

私は先年玆に遊んで寒山寺の僧を訪ねた。僧は晝寢をして居たがムックリ起き來つて來接ー、大に喜んだ。支那の文化は唐の時代（我奈良時代前後）に多く入つて來たので我國人は唐詩選ばかり多く知つて居る。そうしてどういふものか寒山寺の詩を愛吟する。そして多く其寺を訪ねる。住職は僧堂再建の寄附を募集する。寄附者は殆んど本邦人ばかりであるも面白い。吉僧「楓橋夜泊」の韻を以て予に詩を贈つて曰く

蓼岸涼風七月天　　騎驢驚起午時眠
東國詩人叩鐘去　　綠樹青山五繫船

人を見れば詩人といふから面白い。戰爭が終つたら懷かしい寒山寺を對ねたいと思ふ。歸朝して上海・杭州・蘇州・南京・漢口など遊んだ話を、鎌倉師範學校の漢學の先生丸山龍川翁に語ると、翁は漢學の大家、即座に前の韻をふんで歌つて曰く

正是湘南殘暑天　　呼醒學士北窓眠
細談禹域觀光跡　　神往武昌漢口船

國民精神文化長期講習會に出席しての所感

川崎・小田　小山武雄

會　期　自昭和十二年十一月一日
　　至昭和十二年十一月二十九日
會　場　神奈川縣師範學校
　　圓覺寺（全期間宿泊）
　　茅ヶ崎第一小學校
講習員　縣下各都市ヨリ計二十五名

文化は日に月に進んで行くのに反して道念は衰へ、知識は發達して思想は惡化するといふ有樣、歐米文化の病弊と申さうか、社會主義、自由主義、個人主義、功利主義、共產主義等起り、神代以來嚴然たる日本精神は將に地に落ちんとした。その反動として極端な國家主義、所謂右傾主義になるものが擡頭し、國體明徵、日本精神宣揚等といふ運動になり、遂に五・一五、二・二六事件等といふ、いまはしい事件が發生した。世相は不安、加ふるに日支事變勃發し、內外共に非常時を突破して超非常時となつた。

この秋この際、國民精神文化長期講習會に出席する光榮に浴した。我等はこの重大時局に國民精神總動員の最先頭に立つべく張り切つて圓覺寺の山門をくぐつた。然して無量の佛の法を奧に自己の生命の中に生かし、より高きより强き信念を望んで朝に夕に、ひたすら猊下より戴いた公案を眞向に振りかざしつゝ專念した。今一ケ月を回顧し、うたゞ感慨無量……こゝに思ひ出づるまゝに所感の一斷片を……

① 始めて入る禪生活、規矩嚴然たる居士林生活その苦しさ、然して尊さ……修道者の如何に眞劍なるや、午前二時半、床を蹴つて星空を禪堂に急ぐ時、月の傾きを公孫樹の蔭に眺めて歸る時、單に明け星に暮れる。如何なる困苦をも制壓し、專ら體驗により悟りの道へと邁進した。至大至剛の我生命が、現世に中道實相を具顯する時の一刻も早からん事を祈念しつゝ坐禪した。之偏に全期宿泊の賜であり、今にして思へば、かく御計畫下さつた縣當局に唯々感謝の念禁じ得ない。

② 一般に坐禪といふと頗る六ケ敷いものと考へる。然し實際坐禪して見るとさうではない。上智下愚を論ぜず出來る。然して坐禪する事によつてその奧儀を極め、佛法を味得し解脫出來るのである。

教理の議論は達者でも日々の行がそこに到つて居らなくては駄目である。向ふ氣は强いが實際肚の出來て居る人は少ない。輕佻詭激、淨華放縱に流れて質實剛健、淳厚中正の氣風に缺けてゐるのは、之まさしく現代人の委ではあるまいか。誠に遺憾の極みである。この點に於て我々の體驗修道は、例へ禪精神の萬分の一しか味得出來なかつたにせよ今後の生活に意義あるスタートを、はなばなしく切つたといふ事が斷言出來る。

「坐禪は三業といつて身と口と意を淸淨にする」。と古川猊下は論ぜられた。「坐禪するそのまゝが佛の委だ、坐禪して後に佛になるのではなく、坐禪そのまゝの委即佛である。」と竭破された。又「敢て姿勢を整へ正身端坐するのみが禪ではない。行往坐臥することなすゝと悉く威儀作法に契ふて行くのが即ち禪である。」と我々は日常深くこの點を肝に銘して壇上に立たなければならないと思ふ。

③ 三好先生、圓覺寺古川堯道猊下を始め僧侶の方々、各講師の方々の御熱血溢るゝ御指導により「我は日本人なり。」の念をいよ〳〵深め、日本精神の眞髓を把握し、非常時局下に於ける我々の進むべき道を明示され、より崇き、より淸き直き道を求めて勇往邁進、この光輝ある國體を永遠に伸展すべく、唯實踐窮行を、こゝに誓ふものである。

④ 先づ脚下照顧、日々に表はるゝ日本精神を兒童の前に具象顯現し「和」「結び」の大精神を全體觀の上に立つ學校經營、學級經營に觀照し「かくあるべき委」と照應せしめて、理想の至境實現にまで到達する樣專心努力し、以て一ケ月間御指導賜はりました御禮に今後の實績を以て代へたいと思ふ次第である。

勇士を送る

都筑・二俣川　山田沖次郎

一、上一系の天皇まして　　しろしめす國大八洲
下思勇の同胞は　　凝つて正義の劍となり
　　仇なす敵を碎くなり　　君召されたり今ぞ征け
二、東亞の天地風暴れて　　妖龍天に哮ゆる秋
　　皇師百萬堂々の　　肉彈こゝにほとばしる
　　皇道何か阻まんや　　君聖職よ今ぞ征け
三、股肱の臣と嘉せられ　　孝子の精華と名に負ひつ
　　鄕土の譽いや高し　　輝く君の壯途こそ

天地の神も照すらん　　君燦として今ぞ征け
四、征けよ兄弟たのんだぞ　　あとはおいらが引受けた
　　交す言葉も一途に　　祖國に盡す丹誠なり
　　嗚呼一億の大和魂　　君名殘なく今ぞ征け
五、見よ旭日の旗しるく　　歡呼の聲はこだまして
　　鎭守の森を搖ぐなり　　勝ちてぞ歸れ大勇士
　　軍鼓は高しいざやいざ　　君晴れやかに今ぞ征け
　　萬歲　萬歲　萬々歲

小學書方教育研究發表會概況

神奈川縣女子師範學校附屬小學校

當附屬小學校主催神奈川縣教育會後援の小學校書方教育に關する研究發表、並に縣下小學兒童書方成績展覽會は主催側として諸事遺漏勝であつたにも拘らず、德永本縣視學官、田代縣視學、櫻井本縣教育會主事、內田神奈川師範附屬主事、其他多數來賓の御臨席と數百名の來會者によつて非常な盛況裡に終了し得ました事は縣當局の御鞭撻は勿論、縣教育會を始め、縣下多數の參加學校並に來會者各位の誠意ある御聲援に依るものと只管感激に堪へぬ次第であります。左に當日の行事概況を報告して御聲援に應へる蕪辭にかへたいと存じます。

▲實地授業公開（自午前九時　至同九時五十分）

▲研究發表（自午前十時二十分　至午後〇時四十分）

口述發表に先だち結城學校長より本研究會の趣意並に研究經過に關して挨拶あり、引續き本縣視學田代太郎次氏より神奈川縣としての書方教育指導方針とも言ふべき內容を含めての御挨拶ありて後、當校の研究發表に入る。

一、本校に於ける書方教育の方針　　訓導　笠原武夫
二、本校書方教育の實際　　同　原虎雄
三、本校に於ける硬筆書寫　　同　山口アイ
四、我國近代の書道と新興日本書道に就いて論じ新小學書方手本に及ぶ　　囑託　金田心象

▲質疑應答（時間の都合により割愛）

▲主なる研究物

一、實踐書方教授細目　尋一より尋五まで學年別菊版刷
二、書取手本　國語讀本新出漢字を中心として作成した語句を各課一頁宛に排列し、それを謄寫菊版刷として各兒童に持たせ硬筆書寫の鍛錬に資するもの
　尋一より高二まで各學年別全八冊每冊六十頁
三、書話體系　實踐書方教授細目附錄
四、鑑賞教鞭物
　イ、甲種手本扁旁別による教材分類表
　ロ、甲、乙、舊手本教材比較表
ハ、新手本の背景と見るべき諸法帖類
五、兒童の鑑賞力テスト
六、書方教授用具及兒童學習用具
七、書道史要年表

▲縣下小學校兒童書方成績展覽會（主として晝食時縱覽）

一、出品校　四市、各郡及神師附小計百三十六校
二、出品兒童　一千九十六名
三、入賞者　個人別にして天賞、地賞、人賞及褒狀の四種
　天賞二十四名、地賞四十名、人賞八十名、褒狀受領者二百四十名
四、審査員　鈴木翠軒先生

▲講演（自午後一時四十分至三時三十分）

「書方教育について」の約二時間に亘る各務虎雄先生の講演は縣下に於ける本科教育の實踐に偉大なる効果を齎すものと信じます。

（講演要項の記錄は別面掲載あり）

表紙寫眞について

暴支膺懲の軍を起して半歲、待ちに待つた南京陷落である。松井司令官の最後の投降勸告も、頑迷なる抗日分子はこれに一顧も與へなかつた。皇軍は遂に總攻擊を敢行した。十日夜のニュースは早くも脇坂部隊の光華門占領を報じた。翌朝この歡喜は期せずして旗行列となつた。先づ鎭守の森に神明の加護を謝し、更に皇軍の武運長久を祈つた。この時、この感激、我々の胸に永久に新なるものとしやう……。

全體觀に立脚せる

學級教育研究發表會概況

神奈川縣師範學校附屬小學校

當校は去る十二月四日（土）神奈川縣教育會後援のもとに「全體觀に立脚せる學級教育の返照的展開」についての研究發表會を開く、寒さ酷しく且御多忙の折にもかゝはらず、德永視學官、三好視學、永井視學、和田視學、大矢視學、會田女子師範附屬主事、その他多數來賓の御臨席と數百名の來會者により稀にみるの盛況裡に無事終了することを得ましたことは、縣當局のよき御鞭撻と、郡市教育會並に縣下各小學校の絶大なる御聲援のたまものと深く感謝する次第であります。

さて當校今回の發表は嚮に「日本精神の教育」に於て日本精神の本質に就いて國民精神の教養と云ふ方面から檢討を試み、次でそれが教育上に體認せらる可き方法學的部面を、兒童性に立脚せる人性論的立場から「具體性の原理に立脚せる教育の方法學的研究」として發表し、大方の御批判を仰いで參りました。しかし、問題はそれで停止せらる可きものではありません。更に進展の一路を辿る時、是が社會的展開の考察に到る**の必然性を認めます。**惟ふに「和」「むすび」の大精神は、社會的には擧國一致和衷協同の姿として、しかも是は國民教育の基礎として最も純眞無雜な兒童の育成披導を目的とする初等教育の裡に於て、先づ顯現せらる可きものと思ひます。而して其の透徹は、どうしても全體觀に立脚精進する學級教育の成果の上に俟たねばならぬと考へます。それには、果して從來の儘の學級教育の觀方扱方でよいのでせうか。茲に改めて學級教育の「觀直し」をする事にしまして、學級教育上の諸問題を照顧し、之を「かくあるべき姿」と照應せしめて、理想的至境實現への途を返照的に展開させ度いと努めたわけであります。以下當日の概況をお知らせ致しまして御聲援に應えたいと存じます。

◇研究發表會日程（昭和十二年十二月四日（土））

8時45分	（會朝）	
9.00	（實地授業）全體	訓導
9.45	（業務）授導	訓導
10.00	憩休	
12.00	（研究發表）學校長	主事
1.00	憩休	
1.40	（研究發表）前主事	主事
2.00	挨拶	教育會長
4.00	（講演）小先生	川講師

◇實地授業（自九時至九時四十五分）

尋一男	合科	冬のあそび	淺葉幸藏 訓導
尋一女	合科	冬のあそび	小野好司 同
尋二男	讀方	大江山	小原東治 同
尋二女	唱歌	雪	市堀勝義 同
尋三男	修身	慈善	熊坂菊治 同
尋三女	讀方	神風	宮川利三郎 同
尋四男	理科	空氣	原高三 同
尋四女	體操	遊戯を主とした體操の學習	朝倉良夫 同
尋五男	地理	中國地方産業	中村隆秋 同
尋五女	讀方	母の力	石井正夫 同
尋六男	算術	愛國公債	藤平威治 同
尋六女	綴方	十一月の作品（朗讀と短評の會）	小島忠治 同
高一男女	國史	建武の中興	梅澤國松 同
高二男女	圖畫	畫用紙による立體練習—男、小切地の利用による構成練習—女	中村亨 同

◇講演發表

挨拶　佐藤學校長

學級教育の功過　土屋前主事

全體觀に立脚せる學級教育の返照的展開　田中主事

學級の本質　秦訓導

學級教育と社會化　野原訓導

合科教育　小淺葉訓導

◇講演

神奈川縣教育會長挨拶　神奈川縣教育會長代理　德永新太郎先生

學級教育の本質的考察　奈良高師教授　小川正行先生

學級教育の問題は、古くして亦新しき問題でありたへず返照的考察展開を要する問題であります。力足らぬ私共が未熟をも顧ず、敢て進展途上にある研究の姿そのまゝを披瀝して、諸賢の御批正御教示を待つた次第であります。

滿洲帝國國民使節の一行來る

高津小學校日滿一德一心教育視察

十一月七日滿洲帝國特命全權大使臨席の下に、日滿一德一心の教育の研究公開をなし日滿の國際親善に教育方面より力をそゝぎたる高津校に、又もや、十一月十二日今回來朝せられたる滿洲國三千萬代表の國民使節七名は高津校を訪ひ同校に於ける日滿親善教育の實際を視察せられた。

國民使節一行到着と同時に高津校の歴史科、修身科、地理科に於ける日滿一德一心の教育の實況を視察せられ、更に日滿親善展覽會、日滿親善園等を興味を以て熱心に視察を遂げられた。

出動將兵慰問實施

（昭和十二年十月三十日中原本會長は次の依頼狀を添へ縣下各學校長へ夫々斡旋方を依頼した）

拜啓先般來出動將兵慰問資金募集方に關して多大なる御配慮蒙り添なく御蔭を以て別記の通り總額六千五百餘圓に相達し候爲別記の通り慰問實施方法相定め候條御熟覽の上夫々可然御高配煩し度特に御願申上候也

◎慰問ノ方法

一、縣下學校教職員應召者及其ノ戰傷者ニ對スル慰問（之レニ要スル費用約貳千參百圓ノ見込）

イ、學校教職員ニシテ應召セラレタル場合ハ出征祝ノ挨拶狀ニ金拾圓ノ餞別ヲ添ヘテ本人ニ贈ル

ロ、教練指導員ニシテ應召セラレタル場合ハ出征祝ノ挨拶狀ニ金五圓ノ餞別ヲ添ヘテ本人ニ贈ル

（前二項共關係學校長本會ヲ代表シテ之レニ當ル）

ハ、學校教職員ニシテ戰傷ヲ受ケ後送セラレタル場合ハ見舞狀ニ金拾圓ヲ添ヘテ其ノ家族ニ贈ル

ニ、教練指導員ニシテ戰傷ヲ受ケ後送セラレタル場合ハ見舞狀ニ金五圓ヲ添ヘテ其ノ家族ニ贈ル

（前二項共本會役員一名及關係學校長本會ヲ代表シテ家族ヲ見舞フ）

二、縣下戰死者ヘノ敬弔及遺族ノ弔問（之レニ要スル費用約貳千圓ノ見込）

イ、學校教職員ニシテ戰死セラレタル場合ハ金五拾圓ノ弔祭料ニ弔文ヲ添ヘテ其ノ遺族ニ贈ル

ロ、教練指導員ニシテ戰死セラレタル場合ハ金參拾圓ノ弔祭料ニ弔文ヲ添ヘテ其ノ遺族ニ贈ル

ハ、學校教職員、教練指導員以外ノ戰死者ニ對シテハ金五圓ノ弔祭料ニ弔文ヲ添ヘテ其ノ遺族ニ贈ル

（前三項共本會役員一名及關係學校長本會ヲ代表シテ其ノ遺族ヲ訪問シ之レヲ呈ス但シ葬儀ニ間ニ合フ場合ハ會長之レニ參列シ靈前ニ供フ）

三、出征將兵ノ慰問（之レニ要スル費用約壹千八百圓ノ見込）

本縣出征將兵ノ關係部隊ヘ煙草、キャラメル、スキトマーブル等ノ慰問品ヲ贈ル。此ノ場合特ニ本縣出身ノ將兵ノ爲ニ兒童生徒ノ「郷土だより」一等ノ慰問通信文ヲ添フ

（御願　右ニ要スル慰問通信文ハ封入セル封筒ニ入レ開封ノ儘一緯メトシ至急本會ヘ御送付願度）

四、戰傷病者ノ慰問（之レニ要スル費用約四百三拾圓ノ見込）

生徒兒童、教職員、本會各代表者ハ横須賀海軍病院、東京陸軍病院ニ戰傷病者ヲ見舞フ此際見舞金及兒童生徒ノ慰問文ヲ贈ル（御願　右ニ要スル慰問文ヲ封入セル封筒ニ入レ開封ノ儘一緯メトシ本會ニ御送付願度）

五、今後ノ慰問實施ニ就キテ

今回ノ慰問實施ニ當リ左記應募現金六千五百餘圓ハ全部之レニ充當ノ見込、今後モ引續キ二回三回ト慰問ヲ繼續シ、銃後ノ護ヲ一層堅クスルガ資金ヲ募集スル事アルベキニ付豫メ了知セラレタキ事

◎慰問實施ニ關シ必要ナル諸事項

イ、應召者戰傷者ヘノ挨拶狀、見舞狀ハ本會ニテ用意ス

ロ、弔文ハ戰死者ノ閲歴、人物、戰績等ヲ如實ニ表現シ其ノ遺族ヲシテ出來得ル限リ滿足セシムルニ足ル程ノモノニシタシ、從ツテ個別ニ起草スルノ必要アリ

ハ、弔文ノ起草ハ戰死者ト關係深キ其ノ學校長又ハ所在區町村小學校長ノ方ニ依頼ス學校長ハ戰死ノ發表ヲ知リタル時ハ直チニ起草シ本會ニ送付セラレタキコト弔文ハ五百字内外トス

ニ、弔文ノ内容中ニハ縣下九千ノ教職員、中等學校等三十餘萬ノ學童ガ敬弔ノ誠ヲ捧ゲ居ルコトヲ明瞭ニスルコト

◎參考事項

一、弔文草案ハ全部本會ニ於テ保有シ置キ事變終結後其文ニ多少ノ訂正ヲ加ヘ印刷製本ノ上「勇士ノ俤」（假稱）トシテ各遺族及各學校ニ贈呈シ永久ノ記念タラシムル豫定

（御願　右ノ準備トシテ戰死者ノ寫眞ヲ本會ヘ寄送又ハ貸與方ニツキ關係學校長ニ其ノ斡旋方ヲ願度）

出動將兵慰問金（神奈川縣教育會扱分）

昭和十二年十月十二日現在

一金六千五百參拾圓九拾八錢　應募金總高

内　金壹千參百四拾五圓貳拾九錢　教職員出金高

　　金五千壹百八拾五圓六拾九錢　生徒兒童出金

譯　郡市別内譯

一金貳千八百六拾八圓六拾貳錢　公私立中等學校其他

一金參百貳拾圓六拾八錢　横濱市

一金貳拾四圓參拾四錢　川崎市

一金參百貳拾圓貳拾八錢　横須賀市

一金貳拾七圓九拾六錢　橘樹郡

一金貳百六拾圓七拾四錢　都筑郡

一金四百九拾九圓拾貳錢　三浦郡

一金五百四拾圓七拾七錢　鎌倉郡

一金六百五拾八圓參拾壹錢　高座郡

一金壹百參拾四圓六拾七錢　中郡

一金壹百七拾參圓六拾錢　足柄下郡

一金貳百七拾九圓拾八錢　足柄上郡

一金貳百拾圓五拾七錢　愛甲郡

一金貳百拾貳圓拾四錢　津久井郡

備考

本會ニ於テ慰問金募集發表前既ニ横濱市、川崎市、橘樹郡、中郡、足柄下郡等既ニ陸海軍省等ニ獻金セラレタル向多シ、其他ニモ個別的ニ獻金セラレタルモノ多シ

出動將兵慰問ニ關シ學校長各位ニ願度事柄（神奈川縣教育會主事より）

一、貴校教職員教練指導員中應召者ノ職氏名ヲ今一度御報告煩度之レニ基キ本會ヨリ餞別ト挨拶狀ヲ貴職宛ニ御送リ致シマスカヲ可然御願申上ゲマス

二、貴校教職員教練指導員ニシテ戰傷ヲ受ケ後送セラレタル時ハ其職氏名及其ノ家族（妻又ハ子、父、兄等ノ別）ノ住所氏名ヲ報告セラレ度之レニ基キ本會ヨリ見舞狀及見舞金ヲ貴職宛ニ送リマスカラ可然御願致シマス

三、學校教職員教練指導員ニシテ戰死セラレタル場合ハ其職氏名階勲等、階級、戰死場所、戰死年月日、葬儀日取遺族ノ現住所、氏名等關係學校長ヨリ御報告願度

四、小學校通學區域内ニ戰死者ノアリタル場合ハ其區域内ノ誌常小學校長又ハ誌常高等小學校長ヨリ前項ニ準ジ御報告願度

五、前三、四項ノ弔文ハ遺族ガ可成滿足セラル、程ノモノニシタイト存ジマスノデ御迷惑ナガラ其ノ起草ヲ戰死者ノ平常ヲ比較的承知シ居ラル、關係學校長又ハ所在區町村小學校長ノ方ニ是非御願致シマス

六、弔文御起草ノ際別記「慰問實施ニ關シ必要ナル諸事項」中ノ、ロ、ハ、ニ、及「參考事項」ヲ御覽ノ上ニ願度存ジマス

七、戰死者ノ葬儀ガ既ニ濟ンダ場合ハ弔文等ノ準備ノ用來次第關係學校長ト打合セノ上本會役員ガ學校長ト同道其ノ遺族ヲ弔問致シマス

八、葬儀ノ日取ガ決定シテ尚ホ時日ノアル場合ハ會長若クハ代理ノ方ガ參列サレマスカラ其都度關係學校長ハ本會ヘ御相談ヲオ願致シマス

昭和二年三月卒業生
溫舊講習會の記

毎年の秋の事である。我等の先輩が母校へ十年講習で招かれ、その愉快な狀況を語られるので、聞かされる我々もその日の一日も早からん事を望み乍ら、然もそれは未だ程遠いものの樣に感じてゐた。然し遂にその機會は與へられた。十一月十九、二十の兩日がそれである。

思出の段葛を行く。「ヤア〳〵。」「太つたな。」「十九貫だ。」「甲府で一緒にビンタを〳〵つたな。」卒業後始めて會つたわけでもないが奇體に話は十年前に遡る。校門に入る。前面に並ぶ本館と附屬の建物は我等の在校當時のものであるがその後すつかり周圍が整理され清楚、閑舒として古雅あり史都鎌倉の地に於ける教育殿堂として、ふさはしき姿である。

母校には恩師、太田、野尻、望月、吉名の四人の先生が居られ十年前と少しも變らぬ元氣と溫顏とに接し得て懷舊の情、愈々增し、我等の心境は十年の時間を簡單に飛躍して一昔前の生活意識へとグン〳〵還元される。尙稻葉、佐藤、長谷川の大先輩が活躍してゐられる事も愉快である。

控室にあてられた二階の會議室へ入ると、ゐる〳〵ギツシリ。昔乍らの茶目、君子あり、頭髮に大きな減法を施して燈火管制には遮蔽の必要あらんと懸念されるものあり、入念にも顎部より兩頰部を經て將に前額部に迫らんとするかの知き態勢に漆黑の鬚撫を密生せしむるあり。視學型、校長型、主席型、標準訓導型。龜の甲より年の効。嘗て定刻に至ると佐藤學校長溢い顏に稍々綻を含めて登壇以下大要次の如く講習を受く。

第一日

一、挨拶及教育所感（九時—十一時）　佐藤學校長
一、教育的理會（十一時—十二時）　內田主事
一、靜座とその指導（一時—二時）　深尾法順師

第二日

一、附屬實地授業參觀（九時—十時）　太田教諭
一、日本武士と奉公（十時—十一時）　安達教諭
一、支那について（十一時—十二時）

以上の講義終りて正午より寄宿舍の歡迎會に招かる。食堂に入るとデパートを思はせる食卓が並ぶ。これは相當の否！極めて優秀な質なりと。「和」を以て本旨とする教育方針を具現し一つの食卓には同じ室員がつくことになつてゐるとの事。此處でライスカレーの御馳走に預る。此の歡待に應ふべく一部代表として小田原中學の井出君先づ登壇、辯舌爽やかに努力精進の體驗を述べ、「少年易老……」の詩吟を以て結ぶ。續いて二部代表として川崎高小の大內君、悠々迫らず「本當の話」をなし「北支進軍」の浪花節を以て終る。浦石は小學教育十ケ年の體驗者、興味津々たる話術の中に生徒の現在及將來に對するよき教訓を巧みに與ふ。拍手喝采、我等卒業生の面目を發揮して遺憾なし。

終つて母校全先生の御紹介を受け、午後三時總てを終了す。されど尙去り難く蹴球に、庭球に、バレーに嘗つてのチヤンピヨン振りを發揮するものあり。

思へば意義多き二日なり。衰へ行く教育者魂へ活を入れ遠ざかり行く母校と同僚とを結び直す。溫舊の名に恥ぢず今後再び此の如き機會は？淑念あり！。

本講習に際し本校並に附屬の諸先生の御骨折と御厚意を衷心より感謝し、母校の發展を祈る。（小林）

兒童作品募集

一、種目　書方、綴方、圖畫
一、題材　自由
一、締切　毎月十日
一、宛名　神奈川縣師範學校附屬小學校「武相教育」編輯部
一、注意　作品には必ず校名、學年、氏名を記入の上書方三點、綴方一點、圖畫二點學校としておまとめの上御發送願ひたし

編輯後記

戰時體制下の昭和十二年もあと旬日にして暮れんとしてゐます。幸ひ本誌も熱誠なる皆樣の御支援によつてこゝに本年最終號をお送り出來ますことを感謝いたします。

實に國家非常の時、北支に中支に活躍せらるゝ皇軍將士を思ひ、國をあげて國民精神總動員の叫ばるゝ時、吾々教育の任にあるものゝ任務の重大なることを痛感いたします。この時に當つて男女師兩附屬小學校に於て研究發表會の開催せられたことも教育報國の上より、極めて意義深いものと考へます。當日の講演の梗概を掲載させて頂きました。御熱讀の上實際教育より具現せらるゝ樣おすゝめいたします。

佐藤善治郎氏の入學考査に對する考察、極めて時宜を得たものと存じます。その他の雄篇それ〴〵御熱讀いたゞき度、教科指導の續篇もいろ〳〵の都合で本號に掲載出來ませんでしたが順次掲載出來ることゝ存じます。尙御投稿願ひました原稿も編輯子の机上に山積して居ります。何分紙面が狹い關係上思ふ樣に掲載出來ませんことを遺憾に存じます。出來ますならば四百字詰十枚—十五枚位に縮めて御投稿願ひたいと存じます。

歲末多端益々寒氣の酷しさを感じます。諸賢の御健勝にて希望多き昭和十三年を迎へられて、益々御健闘あらんことを祈ります。

神奈川縣師範學校附屬小學校　武相教育編輯部

昭和十二年十二月廿五日印刷
昭和十二年十二月廿五日發行
編輯兼發行人　神奈川縣高座郡藤澤町大鋸二九二　櫻井　誠
印刷人　橫濱市中區住吉町五丁目五十八番地　鈴木清五
印刷所　橫濱市中區住吉町五丁目五十八番地　橫濱活版舍
發行所　橫濱市中區日本大通郵便局內　神奈川縣教育會

昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可
昭和十二年十二月廿五日發行（毎月廿五日發行）　第九十二號